

## はじめに

中途失明者のための訓練施設（失明者更生施設）は全国で17箇所、そのうちあん摩・マッサージ・指圧師、はり師、きゅう師を養成する施設は11、社会適応のための訓練（感覚、日常生活動作、歩行訓練等）を行っている施設は数箇所あり、前者では約1,000人、後者では約200人が訓練を受けています。

ところでこれらの訓練を受けている者のほとんどが男性で、女性は全体の1割にも満たないのです。

身体障害者の実態調査（昭和55年）では、18歳以上の視覚障害者の数は33万6千人で、そのうち54%（18万3千人）を女性が占めているのです。

視覚障害者の半数が女性だというのに、施設を利用する女性が僅少であるというのはどうしてなのでしょう。それは多分男性の場合は、たとえ失明しても家庭的、社会的にも、職業的、経済的自立を目指さなければならない立場にあり、かつ、それを当然とする歴史的、社会的環境にあるのに対して、女性の場合は家庭の中でくらし、すなわち身の廻りの処理、掃除、洗濯、調理など自分のなれで何とかこなせばそれ以上のことは望まず、家に閉じこもって外には出なくなるか、長期間にわたって家庭を離れられない事情がつきまとっているのではないかと思います。「白杖をついた盲女性を街で見かけることはすくない」といわれるのは、盲女性の多くが家庭の中でひっそりと暮らしているからなのでしょう。訓練施設を利用するなどということは、それが歩いて行ける程近くにあれば別でしょうが、そうでない場合、本人が余程の決意で発心しない限りむづかしいことなのでしょう。

当センターの生活訓練に入所してきた30代の全盲女性は、「私は自立生活をしたから訓練をうけてみたいといったら、家族や親族から、今更そんな考えを起こすことはないといって猛反対を受けました。」と語っていましたが、女が盲になったら家の中でひっそりと暮らすことを周囲で肯定している筋があるようです。

こうしたことから私共は、在宅女性視覚障害者は日常生活をどのように過ごしているのか、身の廻りの処理や家事についてどの程度の自立ができているのか、地域での移動やいわゆる社会参加といわれる面でどの範囲の広がりをもったくらしをしているかといったことについて関心をもったのです。そして在宅盲女性のニーズを探りあて盲女性に対するリハビリテーションサービスのあり方を検討するための基礎資料を得たいと考えたのです。

ところでこうした盲女性に対する生活実態の調査は初めての試みであり、企画の段階では、調査項目の選定及び調査方法について練りつくせない点もあり、加えて経費等の制約から対象数を絞っ

て実施せざるを得ませんでした。そこで地元所沢市及び近接の小平市それに国立神戸視力障害センターにご協力をおねがいし、192人について調査を行った次第です。

これによって在宅盲女性のくらしの大体の様子をつかめたと思います。家の中の生活動作についての自立の割合は比較的高い数が示されましたが、これに対し移動、コミュニケーションについての自立度は低く、社会参加の面では予想通り消極的であり、いわば「閉ざされた生活」が立証されたといえましょう。

これは歩行、外出について半数の者は介護者がいないとできないといった事情からきており、身近なところで歩行訓練等のサービスが提供されることの必要性を示唆しているといえます。

この調査をもって在宅盲女性の生活事情全般とそのリハビリテーションニーズを把握したとはいえず、それを的確にとらえるには更に調査項目、調査客体等について吟味し更に調査を積む必要があろうかと思われます。今回そうした調査を企画する上で参考となる材料が得られたという点においては大変有意義であったと考えます。

今回の調査に協力して下さった、所沢、小平両市福祉事務所、国立神戸視力障害センター、所沢市民生委員協議会及び明石市盲人協会関係者に対し心から感謝を申し上げる次第です。

昭和58年6月

国立身体障害者リハビリテーションセンター

指導部長 土 屋 三 友

# 目 次

はじめに .....	1
第1章 調査の概要 .....	5
1 調査の目的 .....	5
2 調査の時期 .....	5
3 調査の対象 .....	5
4 調査の事項 .....	5
5 調査の機関 .....	5
6 調査の方法 .....	5
7 調査客体選定 .....	5
第2章 調査結果の概要 .....	11
1 調査対象者 .....	11
(1) 年齢 .....	11
(2) 疾病名 .....	11
(3) 視力 .....	13
(4) 視野 .....	13
(5) 障害等級 .....	14
(6) 身障手帳交付時期 .....	14
(7) 職業 .....	15
(8) 家族構成 .....	17
2 日常生活動作 .....	17
(1) 身のまわりの処理 .....	17
(2) 家事 .....	19
(3) 調理 .....	20
(4) 通信 .....	22
(5) 歩行 .....	24
(6) 買物 .....	24
(7) 外出 .....	25

(8) 育児 .....	27
(9) 一日の過ごし方 .....	27
(10) 現在の暮らしの満足度 .....	27
(11) 視力の障害別にみた日常生活動作介助状況 .....	30
3 社会参加 .....	33
4 生活訓練 .....	36
(1) リハビリテーションセンターの存在 .....	36
(2) 生活訓練の希望状況 .....	37
(3) 生活訓練の希望科目 .....	38
第3章 ま と め .....	39
資 料 調査結果表 .....	41
参 考 文 献 .....	66

# 第1章 調査の概要

## 1 調査の目的

この調査は、在宅の女性視覚障害者について、日常生活の過ごし方および社会参加の状況等生活実態を調査し、今後におけるリハビリテーションサービスのあり方について研究することを目的として、行ったものである。

## 2 調査の時期

昭和58年3月現在の状況

## 3 調査の対象

埼玉県所沢市、東京都小平市及び兵庫県明石市に在住する18歳以上の女性の視覚障害者

## 4 調査の事項

女性視覚障害者の生活実態調査票（別添）に掲げる事項

## 5 調査の機関

国立身体障害者リハビリテーションセンターが企画し、埼玉県所沢市、東京都小平市及び国立神戸視力障害センターの協力を得て行うこととし、所沢市及び小平市においては、福祉事務所長が依頼した調査員（民生委員等）により、明石市においては、国立神戸視力障害センター所長から明石市盲人協会に調査を依頼し、ボランティアの協力により調査を実施した。

## 6 調査の方法

調査員が調査の対象世帯を訪問し、直接本人に面接して行った。

## 7 調査客体選定

所沢市 身体障害者手帳交付台帳をもとに在宅の女性視覚障害者全数（144名）を対象客体としたが、転出したもの、死亡したもの、長期間不在となっているものなど調査ができなかった者52名で、残りの92名について調査を行った。

小平市 全対象者102名について、無作為抽出し、約半数の49名について調査を行った。

明石市 明石市盲人協会所属の会員で、協会主催の生活訓練講習会に参加した女性視覚障害者並びに盲人協会の活動に参加しているものを主な対象として51名について調査を

行った。

(参 考)

調査対象市の視覚障害者数

昭和58. 1. 1 現在

市 年 齢 級	所 沢 市		小 平 市		明 石 市	
	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上	18歳未満	18歳以上
1	6	121	2	74	4	252
2	3	59	0	42	3	148
3	1	27	0	19	0	57
4	0	27	2	24	1	83
5	1	39	2	15	0	73
6	3	47	0	21	3	111
計	14	320	6	195	11	724
男		176		93		
女		144		102		
人口	126,531		76,555		130,126	
	124,081		73,375		132,472	
	250,612		149,930		262,598	

## 調査についてのお願い

このたび、在宅の目の不自由なご婦人の方々が、日常生活をどのように過ごしているのか、視覚障害によって日常の生活にどのようなご不自由がおりなのか等について、お伺いし、今後におけるリハビリテーション・サービスのあり方について、基礎資料をうるため、この調査を実施することになりました。

お聞きする内容は、①障害名、障害の程度 ②日常生活の状況 ③社会参加の状況 ④生活訓練（歩行、身のまわりの処理の仕方、調理、点字等）についてであります。

なお、この調査に関しては、特に次のことに十分注意いたしますので、安心して、本当のことをお答えいただき、この調査が今後の視覚障害者の福祉のため十分役立つものになるよう、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

1. 調査票は、無記名としています。
2. 集計した事項は、統計以外の目的には用いません。
3. 個人の秘密は絶対に守ります。
4. 答えたくないことについては、お答えしたださらなくてもかまいません。

昭和 58 年 3 月

国立身体障害者リハビリテーションセンター

## 女性視覚障害者の生活実態調査票

(昭和58年3月1日現在)

国立身体障害者リハビリテーションセンター

調査員氏名

調査の目的	この調査は、在宅の目の不自由なご婦人が、日常生活をどのように過ごしておられるのか、視覚障害によって日常の暮らしにご不自由な点がおありなのか、お伺いしリハビリテーション・サービスのあり方を研究することを目的にしています。				
1. 本人について	(右の <input style="width: 40px; height: 15px;" type="text"/> 内に記入してください)				
(1) 年 令	あなたのお歳は満何歳ですか。	1 - (1)	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	歳	
(2) 居 住 地	あなたの現在のお住まいは。	1 - (2)	<input style="width: 60px; height: 15px;" type="text"/>	市 町	
(3) 障 害 名	身障者手帳に記載されている障害名または症病名は何ですか。	1 - (3)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/>		
(4) 視 力	どの程度の視力がおありですか。(下からえらんで記入して下さい)		1 - (4)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/>	
1. 全くみえない    2. 明暗がわかる					
3. 目の前で手の動きがわかる    4. それ以上					
(5) 視 野	視野(視力の範囲)は特に異常が、 1. ある    2. ない	1 - (5)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/>		
(6) 身障等級	身体障害者手帳の等級は、	1 - (6)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/> 級		
(7) 身障手帳 交付時期	手帳が交付されたのはいつですか。	1 - (7)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/> 昭 年 月 日		
(8) 職 業	お仕事は何をしていらっしゃいますか。(簡単に)	1 - (8)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/>		
(9) 家族構成	現在いっしょに住んでいるのは、誰々ですか。		1 - (9)	<input style="width: 100%; height: 15px;" type="text"/>	
1. 独り    2. 夫    3. 子供    4. 親    5. 租父母					
6. その他(甥, 姪, 同居人等)					
次の動作を、自分一人ですみますか。自分一人ですできない場合は、介助の程度を答えてください。 (各動作ごとに、いずれか一つに○印をつけてください。)					
区 分	一人 で できる	一人ではできない			通常はどうしていますか。 (回答があったら簡単に記入 してください。)
		一部介助 が必要	全部介助 が必要	介助者が いない	
2. 生活について	1. 整理整頓	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	
		<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	
(1) 身のまわりの処理		<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	
		<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	
		<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	
(2) 家 事	5. 洗 濯	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	<input style="width: 30px; height: 15px;" type="text"/>	

区	分	一人で できる	一人ではできない			通常はどうしていますか。 (回答があったら簡単に記入 してください。)
			一部介助 が必要	全部介助 が必要	介助者が いない	
(2) 家事	6. 掃除					
(3) 調理	1. 包丁が使える					
	2. ご飯を炊く					
	3. みそ汁, スープなど					
	4. おかず (煮物, やき物など)					
	5. 盛りつけ 配 繕					
	6. 後片づけ 収 納					
(4) 通信	1. 電話					
	2. 手紙(点字, カナタイプなど)					
	3. テープレコーダーの操作					
(5) 歩行	1. 街の中, 道路等					
(6) 買物	1. 近くの小売店での買物					
	2. スーパー, デパートでの買物					
(7) 外出	1. 外出					2-(7) <input type="text"/>
	2. 月にどの位外出していますか。 1. ほぼ毎日    2. 週2~3回    3. 月2~3回 4. 年に数回    5. 全くなかった					
(8) 育児	1. 乳幼児の育児					
(9) 一日の過ごし方	あなたは一日を主にどのように過ごしていますか。 1. 仕事    2. 家事    3. 読書, テレビ, ラジオ, おしゃべり等 4. その他( )					2-(9) <input type="text"/>
(10) 満足度	あなたは, 現在の暮らしでどのくらい満足していますか。 1. 満足している    2. まあまあ満足している 3. 不満があるが仕方がない    4. 不満					2-(10) <input type="text"/>

3. 社会参加について		
(1) 近 隣	<p>ご近所とおつきあいをしていますか。</p> <p style="text-align: center;">例. 介護者がいない, したくない等以下同じ。</p>	
(2) 地 域	<p>地域等の催し, 会合等に参加していますか。</p> <p>1. している 2. していない(理由 )</p>	3-(1) <input type="text"/>
(3) 障害者関係	<p>障害者関係の催し, 会合等に参加していますか。</p> <p>1. している 2. していない(理由 )</p>	3-(2) <input type="text"/>
(4) 点字図書館等	<p>公共施設を利用していますか。(図書館, 点字図書館等)</p> <p>1. している 2. していない(理由 )</p>	3-(3) <input type="text"/>
(5) 親 戚	<p>親戚つきあいをしていますか。</p> <p>1. している 2. していない(理由 )</p>	3-(4) <input type="text"/>
(6) 研究会等	<p>研究会, 趣味の会等へ参加していますか。</p> <p>1. している 2. していない(理由 )</p>	3-(5) <input type="text"/>
(7) 回 数	<p>上記(2) (3) (4) (6) で, 月に何回位参加していますか。</p>	3-(6) <input type="text"/> 3-(7) <input type="text"/> 回
4. 生活訓練について		
(1) リハセンターの存在について	<p>目の不自由な人に, 歩行, 身のまわりの処理のし方, 調理, 点字等を訓練するリハビリテーションセンターがあることをご存じですか。</p> <p>1. はい 2. いいえ</p>	4-(1) <input type="text"/>
(2) 訓練希望の有無	<p>上記のような訓練を受けたいと思いますか。</p> <p>1. はい 2. いいえ</p> <p>はい, いいえ, いずれの場合も下欄へその理由を記述してください。</p> <p>理由 _____</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	4-(2) <input type="text"/>
(3) 訓練希望種目	<p>受けるとしたら, どんな訓練を希望しますか。</p> <p>1. 歩行 2. 身辺処理 3. 調理 4. 点字 5. カナタイプ</p> <p>6. 手書き文字 7. その他(どんなことか記入してください)</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	4-(3) <input type="text"/>
<p>◎ ご意見, ご希望がありましたらお聞かせください。</p>		

ご協力どうもありがとうございました。

## 第2章 調査結果の概要

女性視覚障害者の生活実態を把握し、今後の視覚障害者のリハビリテーションを考えるうえでの資料を得ることを目的に調査を実施したが、調査結果は、調査対象者の概要、日常生活動作、社会参加、生活訓練別に整理した。また地域の特色を考慮し、地域別の結果も合わせて記述した。

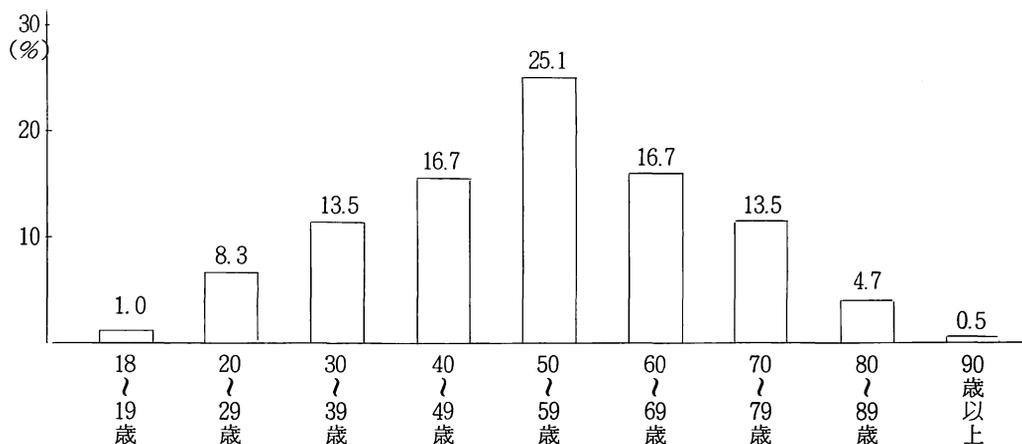
### 1 調査対象者

本調査の対象者の概要は、図1～6、表1～2のとおりである。

#### (1) 年齢

図1は、年齢階級別状況であるが、全体的には50歳代が25.1%と最も多く、つぎに40歳代、60歳代が16.7%である。地域別にみると、所沢市では50歳代、70歳代がそれぞれ22.8%、小平市では60歳代が28.6%、明石市では50歳代が33.3%と最も多くなっている。ちなみに昭和55年身体障害者実態調査報告（1981、厚生省）と比較すると本調査対象者の年齢階級は比較的若くなっており、50歳代をピークにはほぼ正規分布を示しているといえる。

図1 年齢階級別状況



#### (2) 疾病

表1は、疾病別状況を示したものであるが、白内障が19.3%、網膜色素変性症が12.5%、緑内障、角膜混濁以外の角膜疾患、視神経萎縮がそれぞれ10.4%となっており、網膜にかかる疾患が全体の29.8%と多くなっているのが特徴的である。

表1 疾病別人員

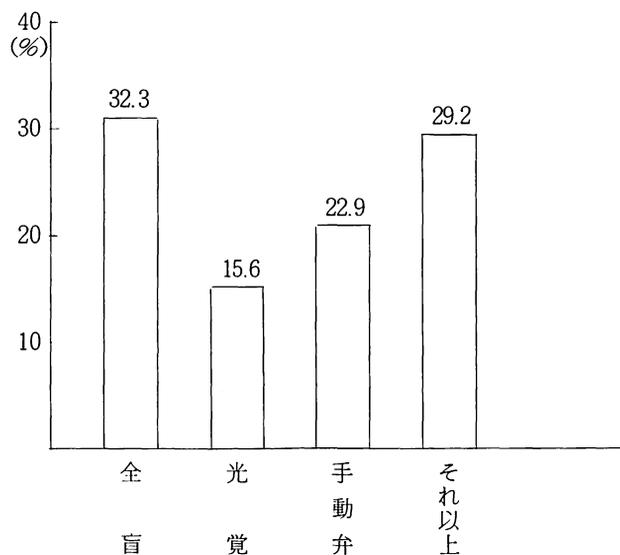
分類	疾患名	市	総数	比率	所沢	小平	明石
総		数 (192名)	222	6%	112	59	51
眼 球	1	小 眼 球	13	6.8	3	2	8
	2	無 眼 球	4	2.1	3	1	0
	3	眼 球 ろ う	12	6.3	6	1	5
代 謝	4	白 子 症	0	0	0	0	0
眼 圧	5	牛 眼	1	0.5	1	0	0
	6	緑 内 障	20	10.4	9	4	7
屈 折	7	強 度 近 視	6	3.1	5	1	0
	8	強 度 遠 視	0	0	0	0	0
角 膜	9	角 膜 混 濁	5	2.6	1	3	1
	10	その他の角膜疾患	20	10.4	10	6	4
ブドウ膜	11	ベ ー チ ャ ッ ト 病	5	2.6	3	1	1
	12	その他のブドウ膜炎	2	1.0	1	0	1
水 晶 体	13	白 内 障	37	19.3	23	7	7
	14	水 晶 体 偏 位	0	0	0	0	0
	15	無 水 晶 体	3	1.6	1	2	0
硝子体	16	網膜硝子体出血	1	0.5	1	0	0
網 膜	17	糖尿病性網膜症	10	5.2	5	4	1
	18	網 膜 炎	4	2.1	2	1	1
	19	網脈絡膜萎縮	9	4.7	4	5	0
	20	網膜色素変性	24	12.5	10	8	6
	21	黄斑部変性	3	1.6	3	0	0
	22	網 膜 剥 離	3	1.6	1	1	1
	23	そ の 他	4	2.1	2	1	1
視 神 経	24	視 神 経 萎 縮	20	10.4	8	9	3
	25	スモンによる視神経炎	1	0.5	1	0	0
26	そ の 他	15	7.7	9	2	4	

(注) 疾患名は、身体障害者手帳に記入されているものを調べたもので、両眼が別々の疾患の者についてはその疾患名をすべて計上した。

### (3) 視力

調査対象者の視力別人員は、「全く見えない」、「明暗がわかる」、「目の前で手の動きがわかる」、「それ以上」の4つのカテゴリで回答を得たが、全体的には「全く見えない」者（全盲）が32.3%、「それ以上」の者が29.2%、「目の前で手の動きがわかる」者（手動弁）が22.9%、「明暗がわかる」者（光覚）が15.6%の順になっている。地域別では、明石市が「全く見えない」者が51.0%と過半数を占めているのが特徴的である。身障手帳の等級では、図4に示してあるとおり、1級が57.8%と圧倒的に多くなっているが、具体的な視力状況をみると、手動弁以上の視力を有している者が29.2%と多くなっている。

図2 視力別状況

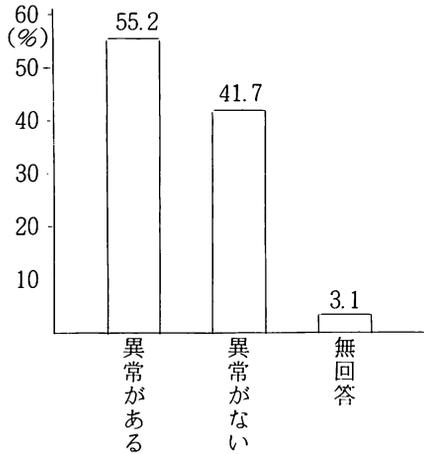


### (4) 視野

日常生活を営むうえでは、視力の障害のほか、視野の欠損状態が視覚障害者の行動に多くの制約を及ぼすことが明らかにされている。視力が0.01でも視野が5°以内である視覚障害者は、信号機を探し出すのもきわめて難しいと言える。Gerald. E. Fonda (1981)によれば、歩行に影響を及ぼす視力は0.015を限界とするが、視野は直径50°以内が欠損している場合、歩行行動に問題が生じると述べている。

図3は、視野別状況を示しているが、全体的に55.2%の者が視野に異常があると回答している。地域別では所沢市で56.5%、小平市で71.4%の者が視野に異常があり、明石市では逆に62.7%の者が視野に異常がない。全体的には過半数の者が視野異常を有しており、歩行上の問題をもっている者が多いと考えられる。

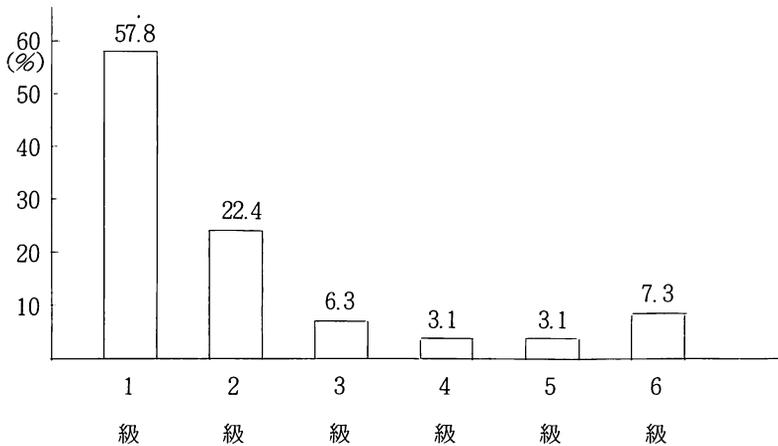
図3 視野別状況



(5) 障害等級

図4は、身障手帳に記載されている障害等級の回答の結果であるが、全体的には1級57.8%、2級22.4%で1級と2級を合わせると80.2%にも達している。昭和55年身体障害者実態調査報告によれば、1級が37.5%、2級が14.5%で、1級と2級を合わせて52.0%である。従って本調査の対象者は1・2級のいわゆる重度視覚障害者が多くなっている。しかしながら、全く見えない者は、図2に示すとおり、32.3%であり、身障等級から視力の状況を判断するのは困難であると思われる。

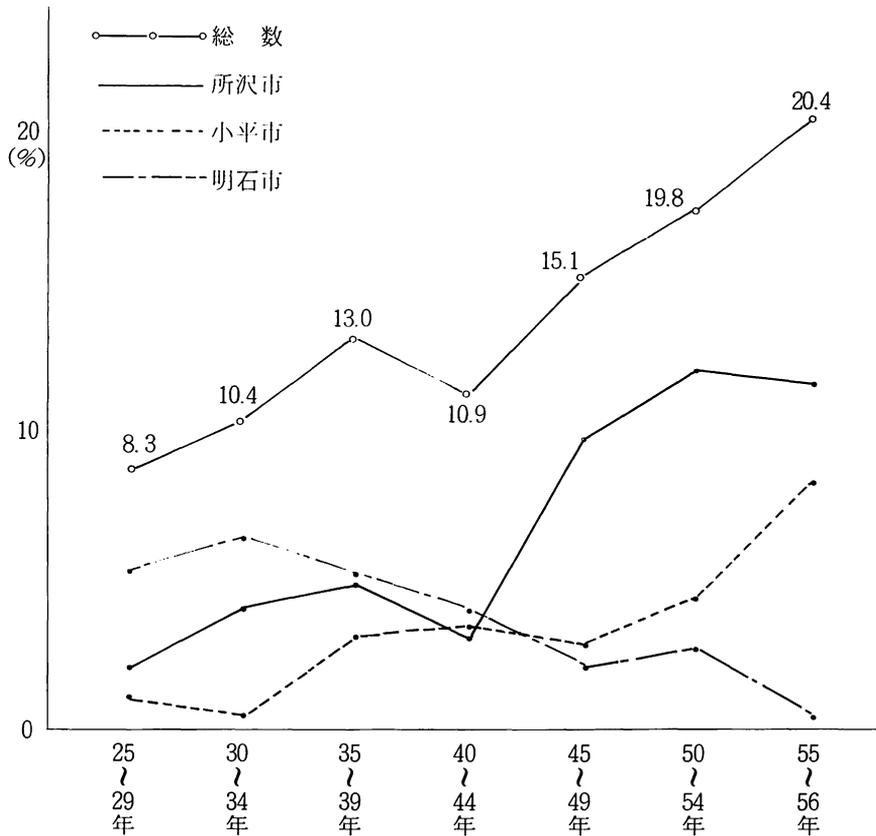
図4 障害等級別状況



(6) 身障手帳交付時期

身障手帳の交付時期は、全体的には昭和55年以降に交付された者が20.4%と最も多くなっているが、昭和50年～昭和58年までに交付された者が40.2%で、6割の者が昭和50年以降に障害の判定を受けている。地域別では、明石市が昭和25年～昭和34年に身障手帳の交付を受けた者が43.1%と他の市と比較して多い。

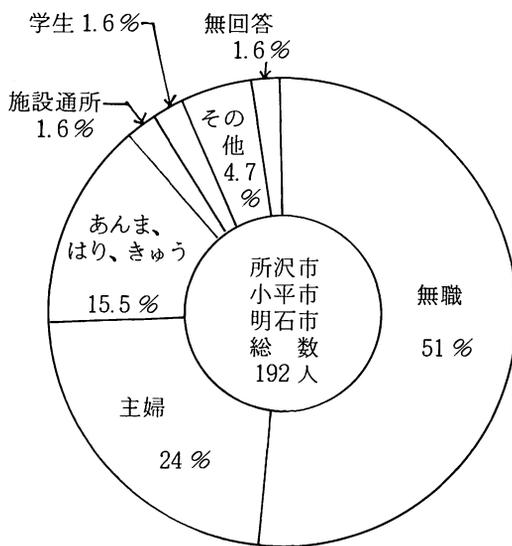
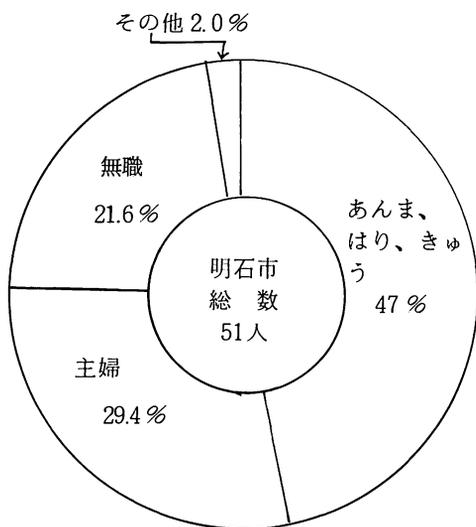
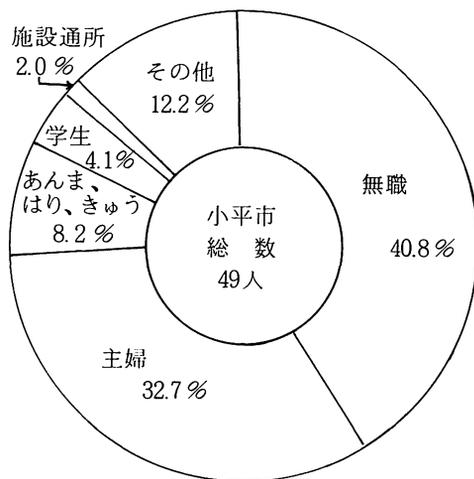
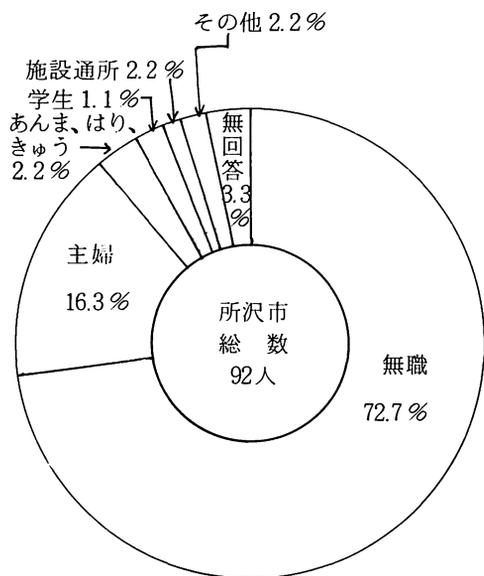
図5 身障手帳交付時期



(7) 職業

職業に対する回答では、全体的には51.0%の者が無職と回答しており、そのつぎに24.0%の者が家庭の主婦として生活している。視覚障害者の伝統的な職業である理療師は15.5%となっている。地域別では明石市が理療師として職業をもっている者が47.0%を占めているが、他の市は少ない。所沢市では「無職」と回答した者が72.7%にも達している。これらの中には無職と回答した者が家庭の主婦であることも考えられるので、実際には家庭の主婦は24.0%よりも多いと考えられる。

図5 職業別状況



## (8) 家族構成

家族構成についての全体の回答では、夫婦のみの世帯、夫婦と子供の世帯、母親と子供の世帯等のいわゆる核家族世帯が60.0%、そのつぎに単身世帯が13.5%であった。これらの中でも夫婦と子供の世帯が32.9%と最も多くなっている。昭和55年身体障害者実態調査報告（1981、厚生省）では、単身世帯が10.7%、核家族世帯が38.7%、3世代世帯が33.3%となっており、核家族世帯の中でも、夫婦と子供の世帯が20.5%と報告されている。従って本調査の対象者は核家族世帯が60%と若干多くなっている。

表2 家族構成状況

家族構成	総数		所沢市		小平市		明石市	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
総数	192	100.0%	92	100.0%	49	100.0%	51	100.0%
独身	26	13.5	4	4.3	11	22.5	11	21.6
夫	28	14.6	9	9.8	9	18.4	10	19.6
夫・子供	63	32.9	32	34.8	13	26.6	18	35.3
夫・子供・親	8	4.2	5	5.4	1	2.0	2	3.9
夫・子供・その他	6	3.1	3	3.3	3	6.1	0	0
夫・親	1	0.5	0	0	1	2.0	0	0
夫・祖父母	1	0.5	1	1.1	0	0	0	0
子供	24	12.5	19	20.7	3	6.1	2	3.9
子供・その他	8	4.2	8	8.7	0	0	0	0
親	6	3.1	2	2.2	2	4.1	2	3.9
親・祖父母・その他	1	0.5	0	0	1	2.0	0	0
親・その他	7	3.6	4	4.3	0	0	3	5.9
その他 (兄嫁、嫁、甥、姪など)	13	6.8	5	5.4	5	10.2	3	5.9

## 2 日常生活動作

日常生活動作の実態は、身のまわりの処理、家事、調理、通信、歩行、買物、外出、育児、一日のすごし方、生活への満足度別の項目で回答結果を整理した。

### (1) 身のまわりの処理

身のまわりの処理については、整理整頓、身だしなみ（化粧、服装、整髪など）、お金の見

分け方、食事動作（しょうゆなど適当にかけられる等）ごとに一人でできるかどうか、一人でできない場合は介助について質問した。その結果が図7に示してある。

整理整頓、身だしなみ、お金の見分け方、食事動作とも、「一人でできる」者が多く、それぞれ80.7%、84.9%、80.3%、77.6%と高い割合を占めている。「一人でできない」者の中で、一部介助が必要な者は整理整頓が13.5%、身だしなみが10.9%、お金の見分け方が10.9%、食事動作が14.1%である。全部介助が必要な者は整理整頓が5.8%、身だしなみが4.2%、お金の見分け方が8.3%、食事動作が7.3%である。従って、一人ではできなくて何んらかの介助が必要な者は整理整頓、身だしなみ、お金の見分け方、食事動作がそれぞれ19.3%（37人）、15.1%（29人）、19.2%（37人）、21.4%（41人）となっている。

地域別にみると、明石市が他市と比較して、一人でできる者が9割に達しており、介助の要求度が低くなっている。（図8）

図7 日常生活状況（身辺管理）

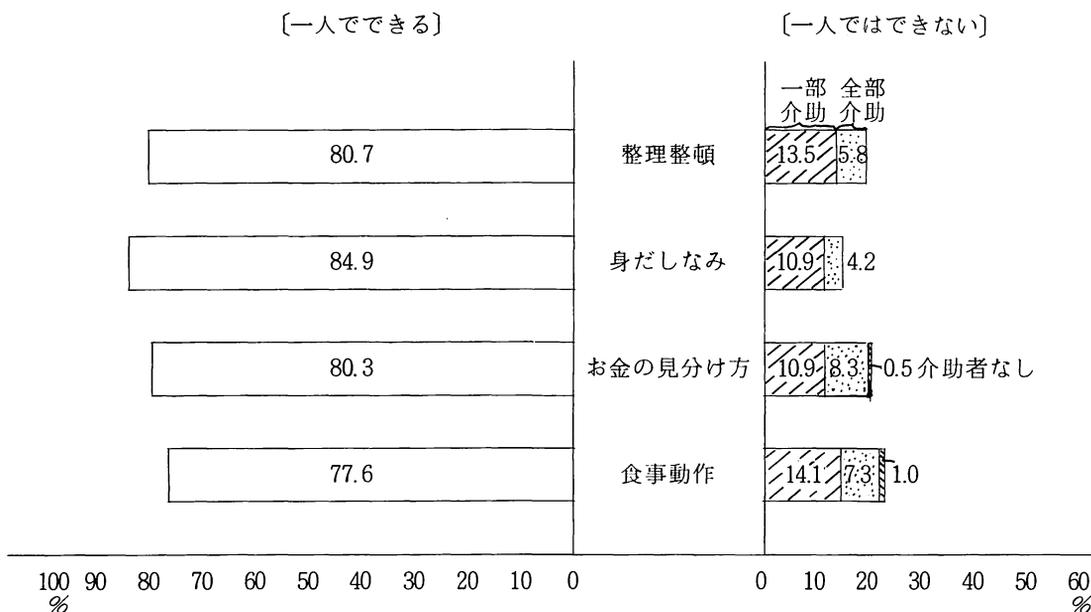
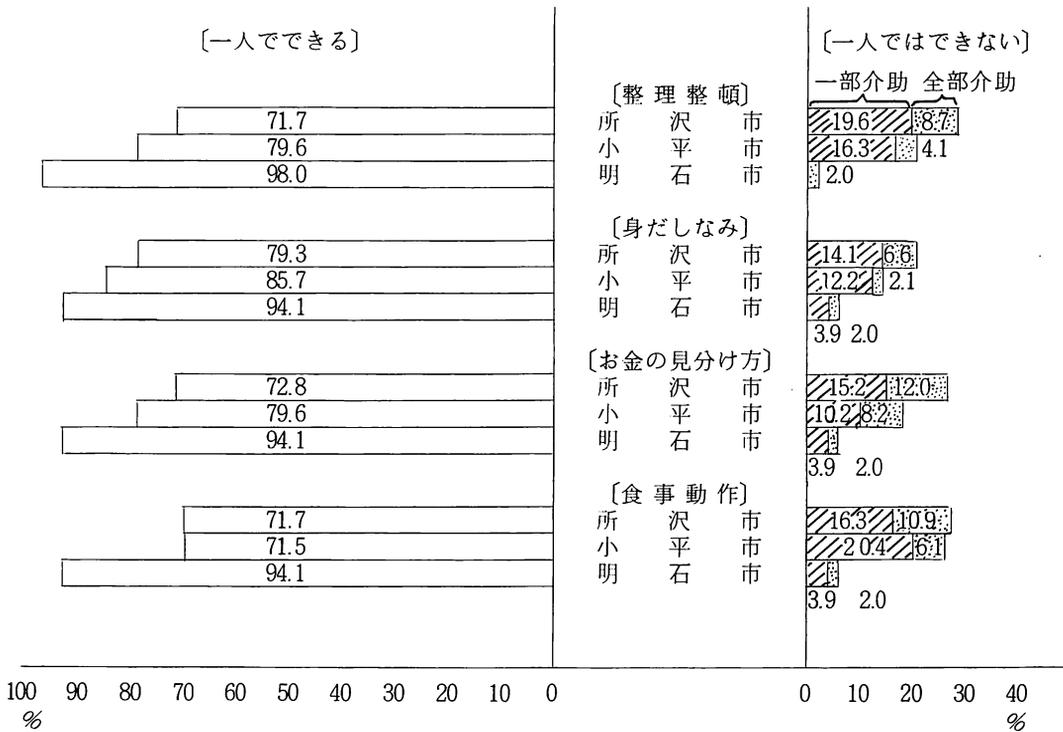


図8 市別の日常生活状況（身辺管理）



(2) 家事

家事については、洗濯と掃除を一人でできるかどうか、一人でできない場合の介助について質問したが、洗濯で83.3%、掃除で76.0%の者が一人でできると回答している。洗濯で「一部介助が必要」な者が9.9%となっている。また掃除では、「一部介助が必要」な者は11.5%、「全部介助が必要」な者は9.9%となっている。地域別では明石市が他市に比較して、一人でできる者が98.0%に達しており、自立度が高いと思われる。（図10）

図9 日常生活状況（家事）

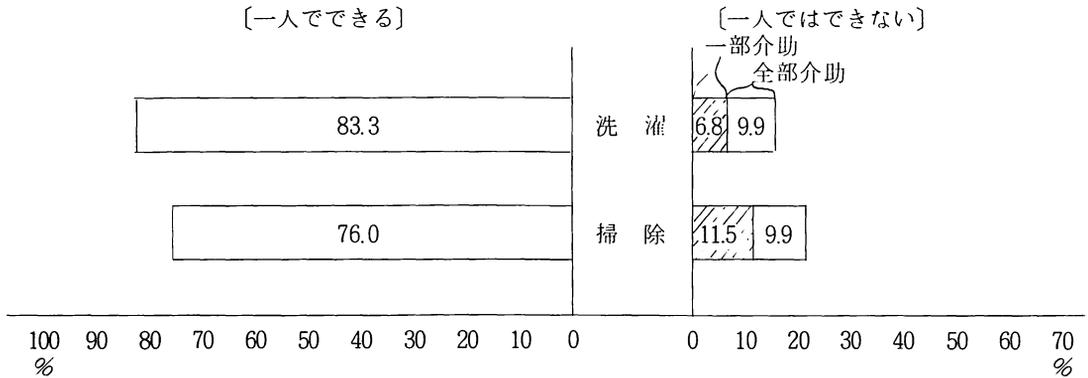
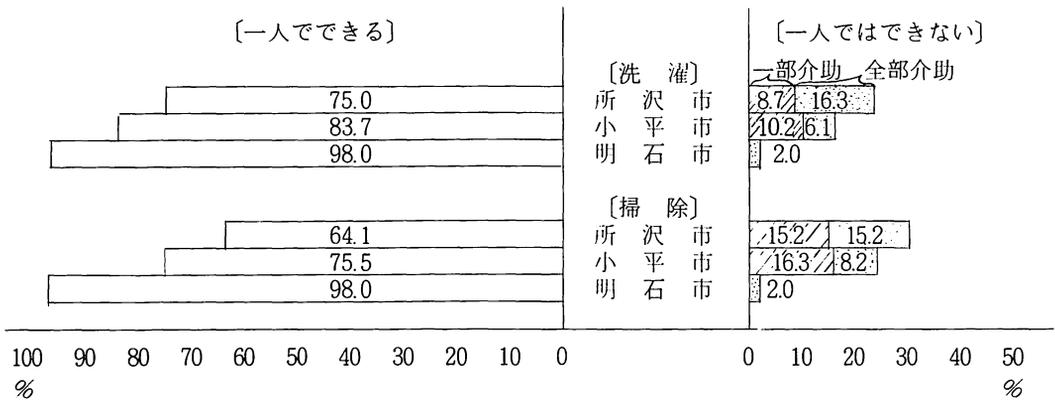


図10 市別の日常生活状況（家事）



(3) 調理

本調査の対象者の24.0%が家庭の主婦として生活していたのであるが、調理の自立状況を把握するために、包丁が使える、ご飯を炊く、みそ汁・スープ、おかず、盛りつけ・配膳、後片づけ・収納等の項目で一人でできるかどうか、一人でできない場合の介助について質問した。その結果は図11・12に示してあるとおりである。「おかず（煮物・やき物など）」と「盛りつけ・配膳」で一人でできる者が72.4%となっており、「包丁が使える」と「ご飯を炊く」で一人でできる者がそれぞれ80.7%、「みそ汁・スープなど」で一人でできる者が79.7%、「後片づけ・収納」で一人でできる者が77.1%である。調理において何んらかの介助を必要とする者は、おおむね19.7%であり、「おかず」と「盛りつけ・配膳」では24.0%の者が介助を必要としている。

図11 日常生活状況（調理）

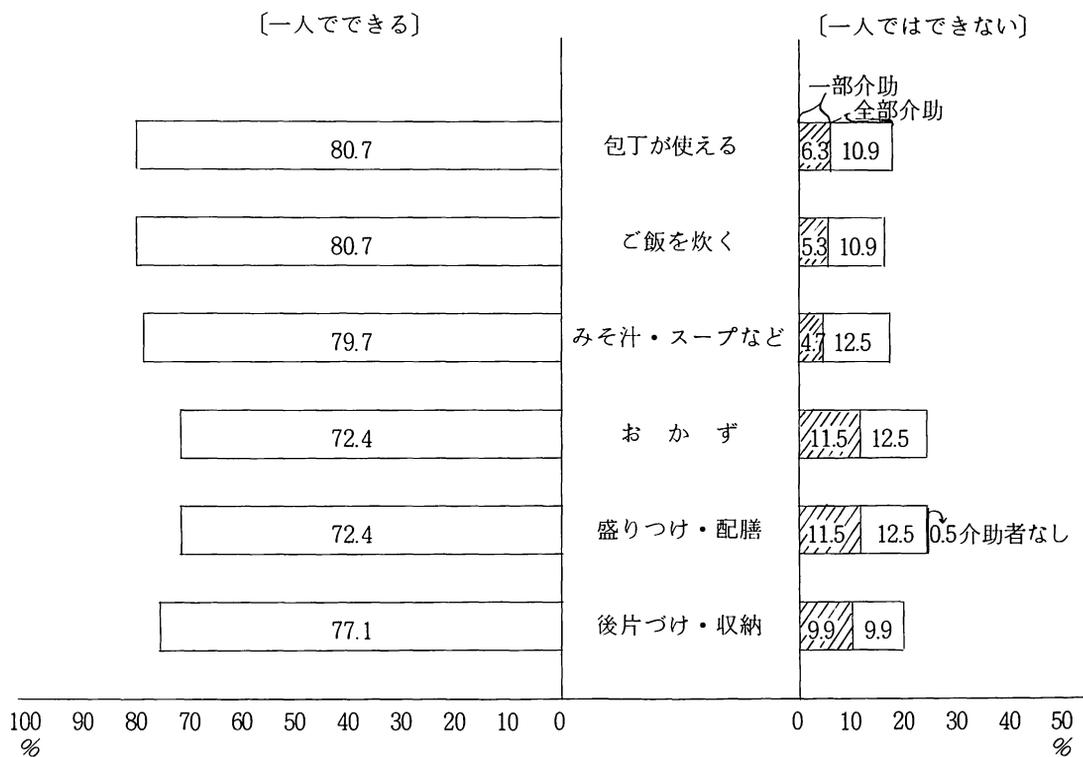
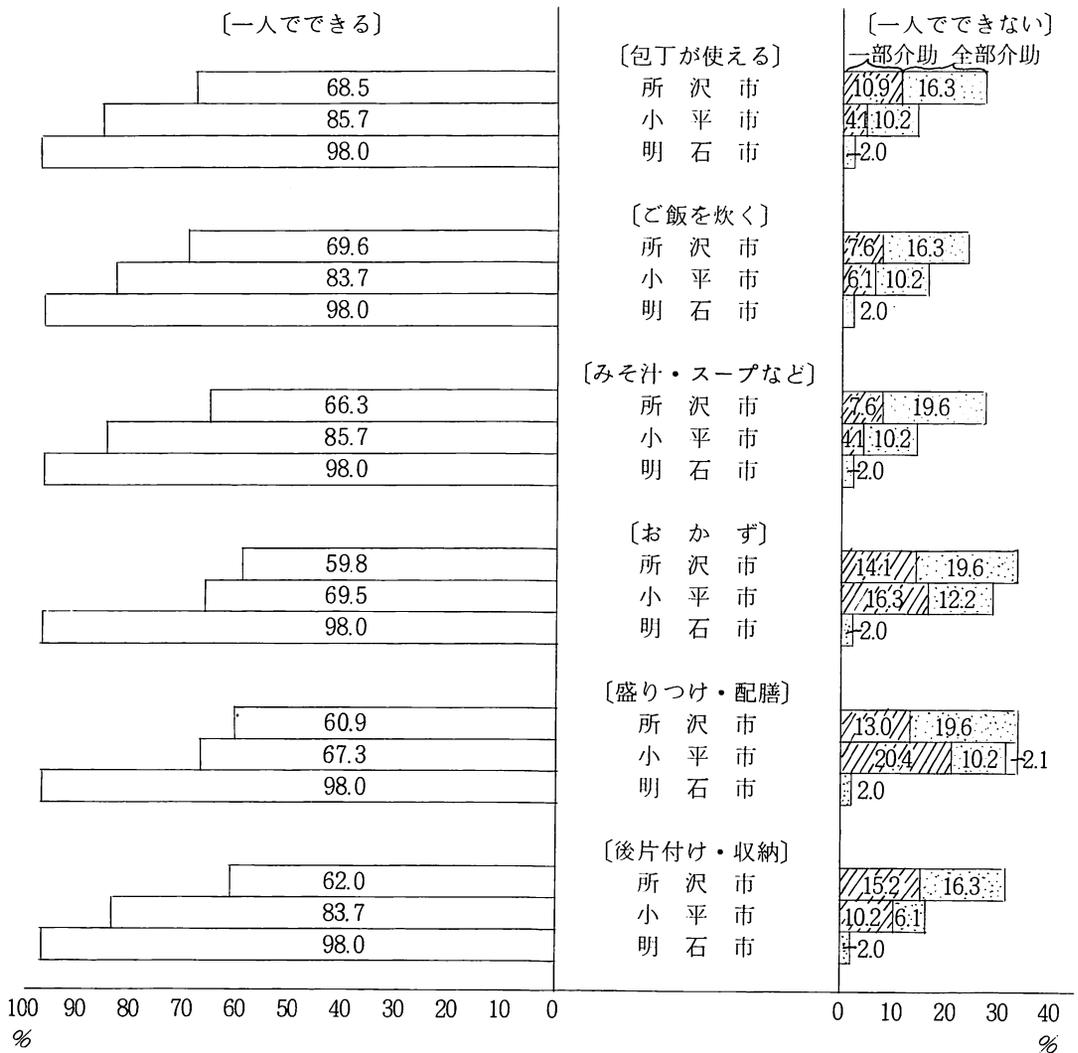


図12 市別の日常生活状況（調理）



(4) 通信

コミュニケーションの実態については、通信として、電話、手紙（点字・カナタイプなど）、テープレコーダーの操作の項目で回答を得たが、その結果は図13・14に示してあるとおりである。電話では79.2%の者が一人できると回答しているが、手紙では一人できると回答している者は47.9%に減少している。従って手紙については全部介助が必要である者が31.8%、一部介助が必要な者が12.0%となっており、何んらかの介助を必要としている者は43.8%に達している。テープレコーダーの操作は一人できると回答している者が60.9%と電話より若干減少している。コミュニケーションに関連している通信は、身のまわりの処理、家事、調理等に比較して介助の要求度が高くな

っているといえる。

図13 日常生活状況（通信）

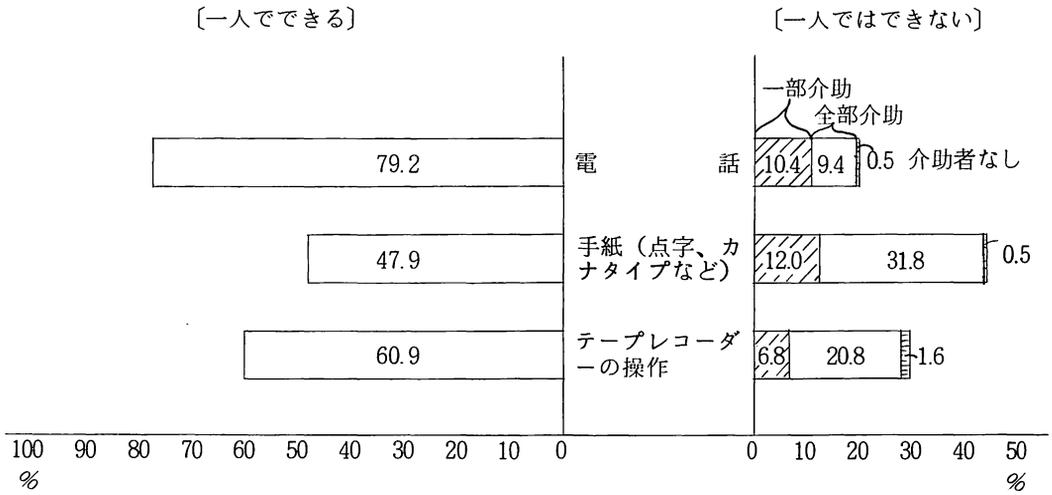
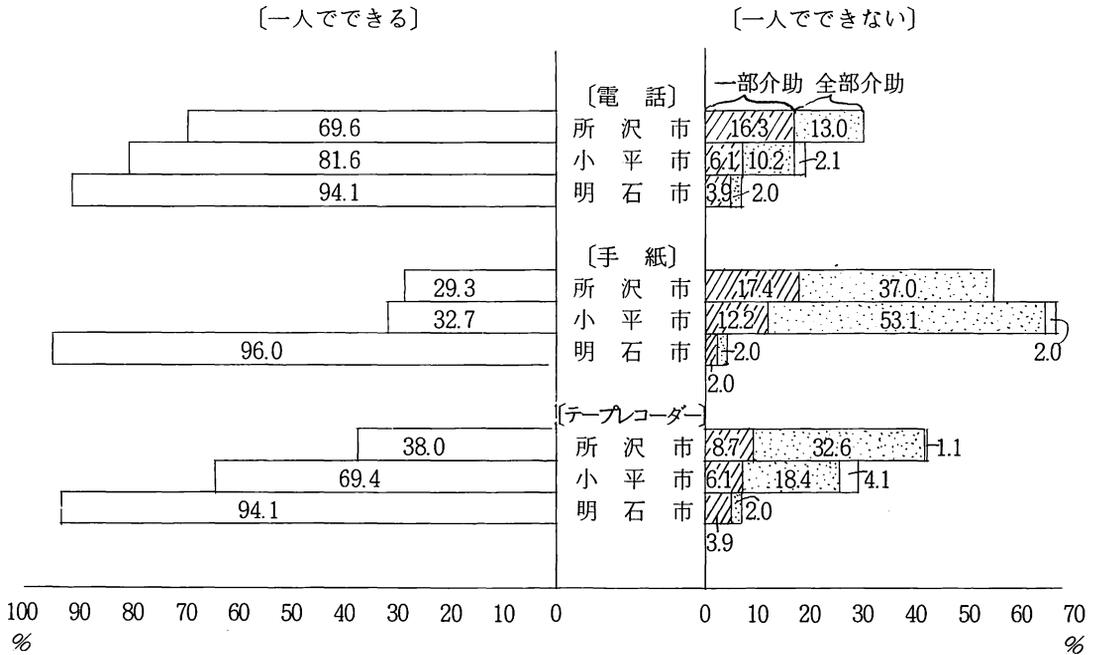


図14 市別の日常生活状況（通信）



(5) 歩行

歩行については、図15に示しているとおり、一人のできる者は49.0%で、全部介助を必要とする者が29.2%、一部介助を必要とする者が18.8%となり、何んらかの介助を必要とする者が過半数を占めている。この結果は、日常生活動作の中の介助の要求度からみると、スーパー・デパートでの買物、外出、手紙について介助の要求度が高くなっている。

図15 日常生活状況（歩行）

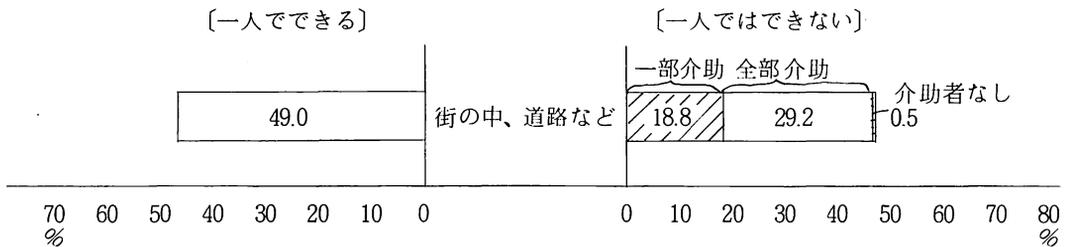
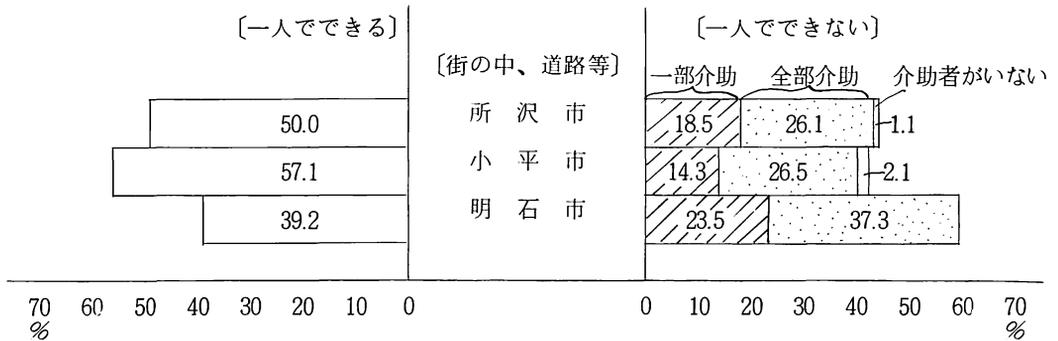


図16 市別の日常生活状況（歩行）



(6) 買物

買物については、近くの小売店での買物、スーパー・デパートでの買物の2つの項目で質問を行ったが、近くの小売店での買物において一人のできる者は51.6%、全部介助が必要な者が30.7%、一部介助が必要な者が14.1%となっている。スーパー・デパートの買物においては一人のできる者が35.9%、全部介助が必要な者が37.0%、一部介助が必要な者が22.9%となっており、日常生活動作の中で最も高い介助要求度を示している。

図17 日常生活状況（買物）

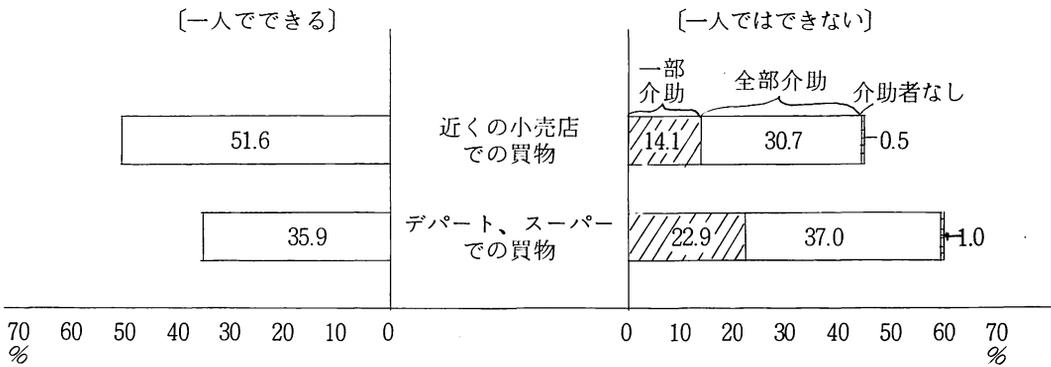
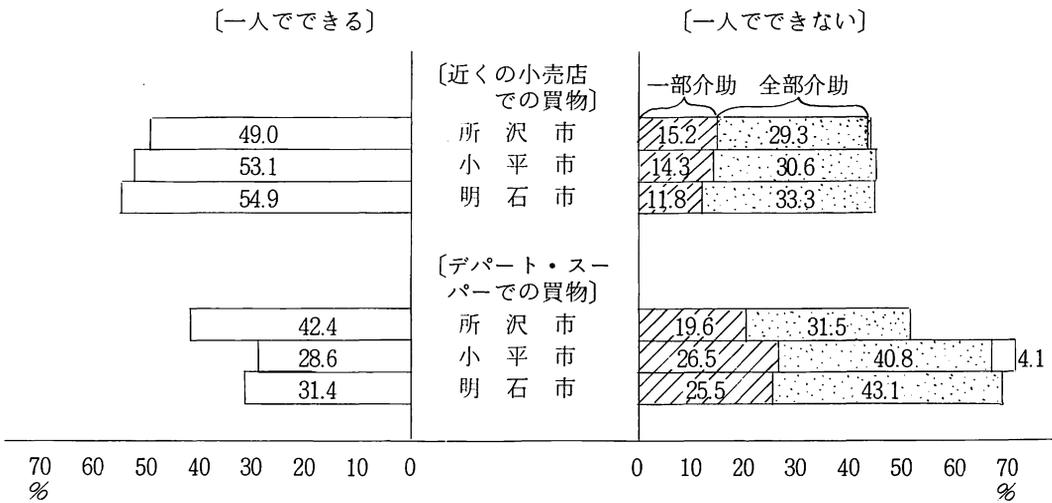


図18 市別の日常生活状況（買物）



(7) 外出

外出は、歩行の回答結果とほぼ対応しており、一人でできる者が47.9%、全部介助が必要な者が31.8%、一部介助が必要な者が14.1%となっている。また、外出回数について質問したところ、「週2～3回」が29.8%、「月2～3回」が27.6%、「ほぼ毎日」が26.0%、「年に数回」が9.9%、「全くなかった」が5.7%となっている。「ほぼ毎日」と「週2～3回」を合わせると55.8%で、過半数を占めている。外出を一人でできる者は47.9%であったが外出回数が多いことから介助の役割が重要であるといえる。

図19 日常生活状況（外出）

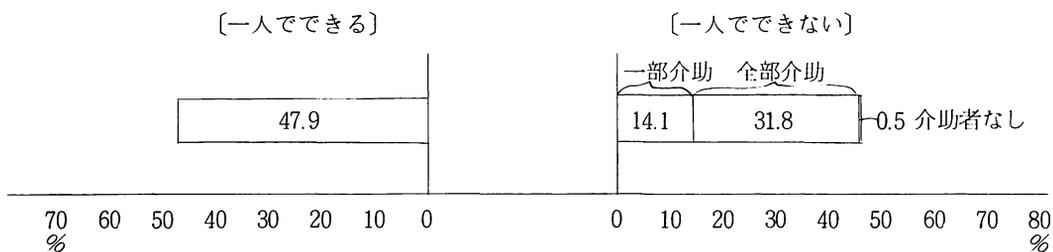


図20 市別の日常生活状況（外出）

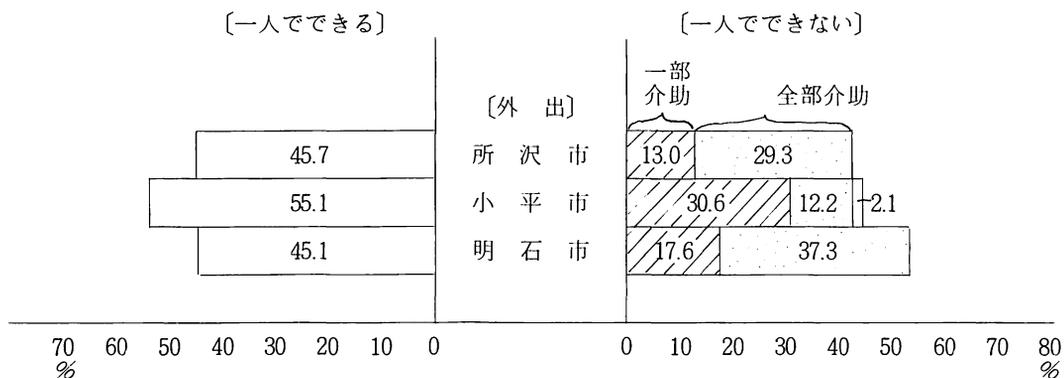
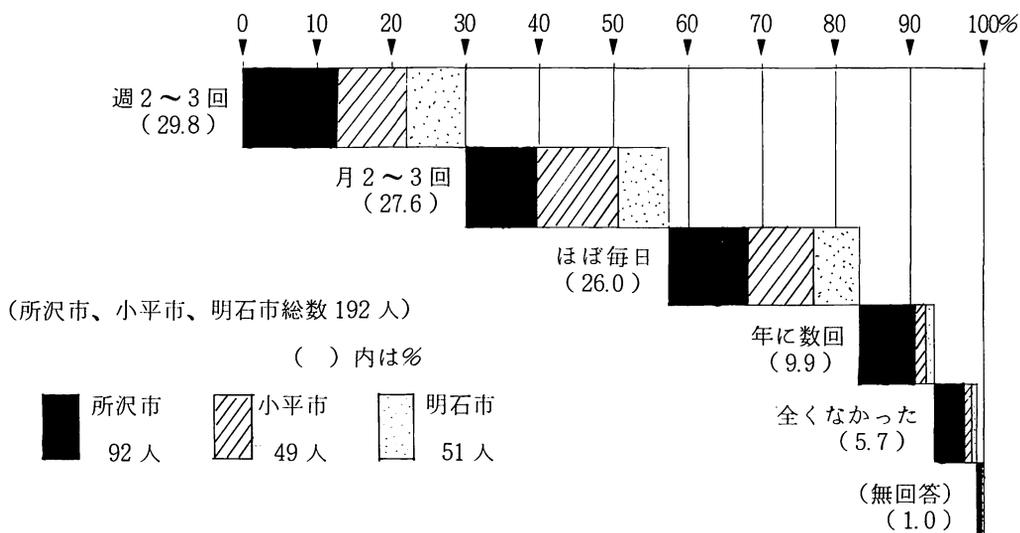


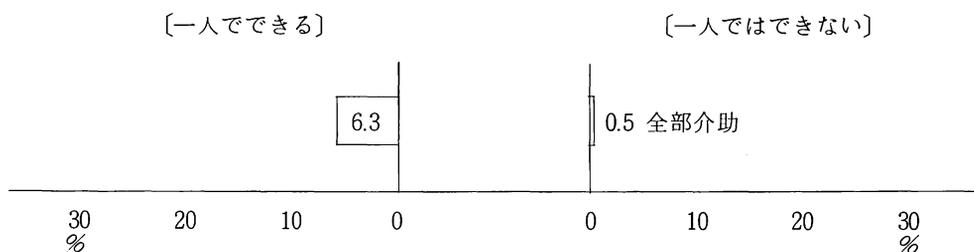
図21 外出回数



(8) 育児

育児については、乳幼児の育児に限って質問したが、現在育児をしている者が少なく、無回答が93.2%に達した。一人でできる者は6.3%であるが、本調査では育児の経験はあっても現在育児をしていない者が圧倒的に多かった。

図22 日常生活状況（乳幼児の育児）



(9) 一日の過ごし方

一日の過ごし方について、仕事、家事、読書・テレビ・ラジオ・おしゃべり等、その他の中から主にすごしているものを選ぶ選択肢法で回答を得た。その結果は図23のとおりである。家事に費やしている者が最も多く43.3%となっており、そのつぎに読書・テレビ・ラジオ・おしゃべり等と回答した者が28.1%、仕事と回答した者が18.2%、その他が10.4%である。女性視覚障害者である点を考えると家事が多くなっているのは当然といえる。

(10) 現在の暮らしの満足度

現在の暮らしでどのぐらい満足しているかを、満足している、まあまあ満足している、不満があるが仕方がない、不満の4段階の評定法で質問した結果が図24である。満足していると回答した者は少なく3.1%であり、まあまあ満足している者は11.5%である。従って、不満があるが仕方がないおよび不満と回答した者が84.9%を占めている。日常生活動作の自立度を考えてみると、身辺処理、家事管理については、自立度が高いが、コミュニケーション、歩行等は自立度が低い結果が出ており、日常生活上最も基本的な行動が確立しておらず、生活上のニーズを満足させるのに問題が生じていると考えられる。現在の暮らしの満足度が低いのも、このような日常生活動作を単独で自由にできないところにその原因があると思われる。

図23 一日の過ごし方

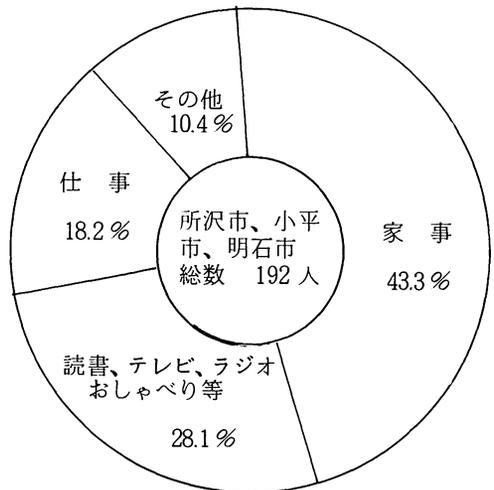
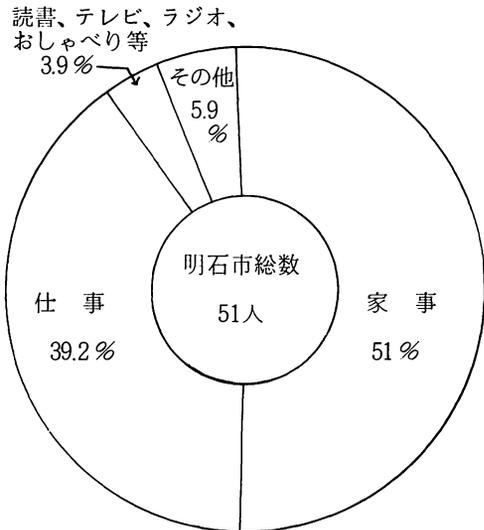
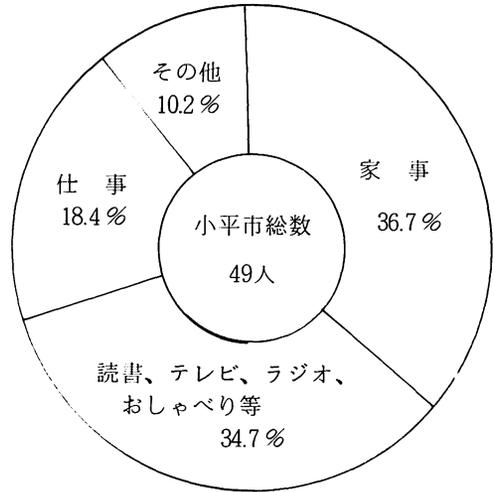
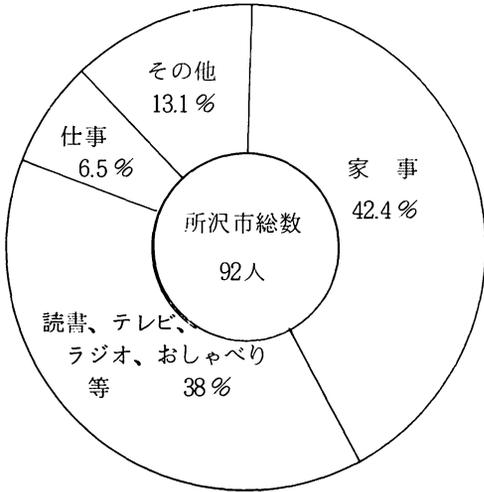
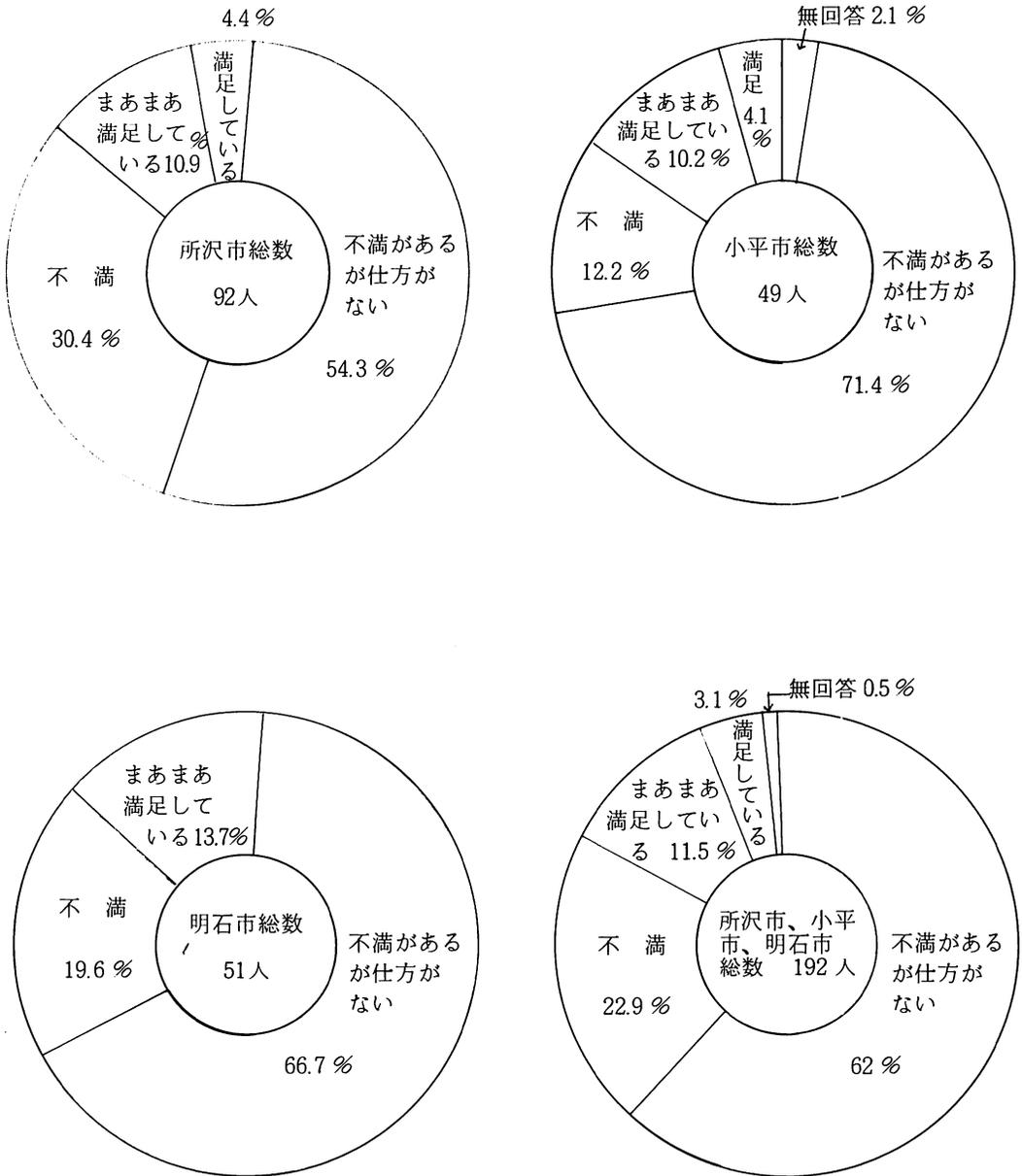


図24 現在の暮らしの満足度



(11) 視力の障害別にみた日常生活動作介助状況

表3の視力の障害別にみた日常生活動作別介助において全体的な相関を見るために、所沢市、小平市、明石市の3市の総数の回答から、無回答を除いて表4のように整理した。

表3 視力の障害別にみた日常生活動作別介助の状況  
(所沢市、小平市、明石市の3市の総合)

介助の状況	一人でできる			一部介助が必要			全部介助が必要		
	全盲	明暗弁	手動弁以上	全盲	明暗弁	手動弁以上	全盲	明暗弁	手動弁以上
整理整頓	47	23	85	6	6	14	9	1	1
身だしなみ	47	25	91	7	5	9	8	8	0
お金の見分け	44	20	90	6	7	8	12	2	2
食事動作	44	18	87	7	8	12	11	2	1
洗濯	46	25	89	3	3	7	13	2	4
掃除	44	21	82	3	7	12	13	2	4
包丁の使用	47	22	86	2	4	6	12	4	5
ご飯炊き	46	21	88	1	5	4	13	4	4
みそ汁、スープ作り	44	23	86	2	2	5	14	5	5
おかず作り	39	19	81	7	6	8	14	5	6
盛りつけ、配膳	39	18	82	7	6	9	14	5	5
後片づけ	43	20	85	5	7	7	12	3	4
電話の使用	40	21	91	11	3	6	10	5	3
手紙	30	12	50	5	5	13	22	11	28
テープの使用	42	16	59	2	3	8	14	8	18
街中の歩行	8	9	77	14	6	16	39	12	5
小売店での買物	14	9	76	8	7	12	39	13	7
スーパーでの買物	7	5	57	13	6	25	41	17	13
外出	12	7	73	6	6	15	41	14	6
計 $\Sigma$	683	323	1515	115	102	196	346	123	121
平均 $\bar{x}$	約36	17	80	6	5	10	18	7	6

表3の最下段の19項目の平均値で、つぎのような2変量度数分布の相関表にまとめた。

表4 視力と日常生活動作の介助の状況 (単位：人)

	全 盲	明暗弁別	手動弁以上
全部介助が必要	18	7	6
一部介助が必要	6	5	10
一人でできる	36	17	80

X変数は視力の障害度で、級間値を「全盲—全く見えない」「明暗弁別—明暗がわかる」「手動弁別以上—目の前の手の動きがわかる」の3段階とした。Y変数は介助の要求度で級間値は「一人でできる」「一部介助の必要」「全部介助の必要」の3段階とした。表3の2変量度数分布の相関表を見やすくしたものが図25の相関図である。

図25 視力と日常生活動作介助の相関図 (単位：人)

	全 盲	明暗弁別	手動弁以上
全部介助が必要	.....	.....	.....
一部介助が必要	.....	.....	.....
一人でできる	..... .....	.....	..... ..... ..... .....

図18から見られるように「一人でできる」と答えた者が多く全体の約70%を占めている。視力別では、手動弁別以上の者が40%以上であり、全盲者はその半数の約20%が「一人でできる」と答えている。

しかし介助を必要とする者が、約30%もいることは大きな問題と考えられる。自立更生という点で何んらかのリハビリテーション・サービスが必要であろう。

次の視力の障害の程度と日常生活動作における介助との相関を上記の2変量度数分布から、次

$$r = \frac{N \sum x'y' - \sum f x' \sum f y'}{\sqrt{[N \sum f x'^2 - (\sum f x')^2] [N \sum f y'^2 - (\sum f y')^2]}}$$



問題の深刻度を増している。また一人でできると答えた50%の中、手動弁別以上の弱視者が82.0%も占めており、一人歩きできる者の大多数は弱視者に限られている。逆に介助を要する度合いは、重度の視覚障害者の方に多くなっており、全盲者の中、介助を要する者は87.0%にも及ぶ。反面、明暗弁以上の何んらかの視力を有する者の中、43.0%もの者が介助を必要としている。このことも大きな問題であり、何んらかの視力を有する者にも、質の異なった歩行に関するリハビリテーション・サービスが必要であろう。

つぎに、統計上から視力の障害の程度と移動介助の度合いの相関を上記の2変量度数分布からとると、 $r = -0.65$ といういちじるしい負の逆相関を示した。つまり、重度の視力障害者程より多く移動の介助を必要とするといえる。

このように視力障害の度合いと日常生活動作介助の必要度は、日常生活動作の種類によって異なるので、視力障害の度合いと、動作の種類によって介助、又はリハビリテーション・サービスの質と量を工夫する必要があるだろう。

最後に、「一人でできない」と回答した者の中で、介助者がいないことを理由にしている者は、全盲者13人、明暗弁別8人、手動弁別以上で3人、合計24人となる。このことは、訪問指導やホームヘルパーの充実が強く望まれる。

### 3 社会参加

社会参加状況については、近隣とのつきあい、地域等の催し・会合、障害者関係の催し・会合、点字図書館等の利用、親戚づきあい、研修会・趣味の会等の6項目について参加状況を質問した。その結果は図27・28のとおりである。親戚づきあいが最も多く、9割近い人達が行っている。そのつぎに近隣とのつきあいが多く、6割の人が行っている、その他の地域等の催し・会合、障害者関係の催し・会合、点字図書館等の利用、研修会・趣味の会等は、3割の人が参加・利用している。従って、女性視覚障害者は、社会資源を活用している人が少なく、積極的な社会参加の状況になっていない。

社会参加回数状況は図29に示してあるとおりである。参加回数0の者が最も多く27.1%(52人)で、そのつぎに2回の者が15.6%(30人)、1回の者が14.1%(27人)となっており、参加しないか、もしくは参加しても2回ぐらいまでといえる。

図27 社会参加状況

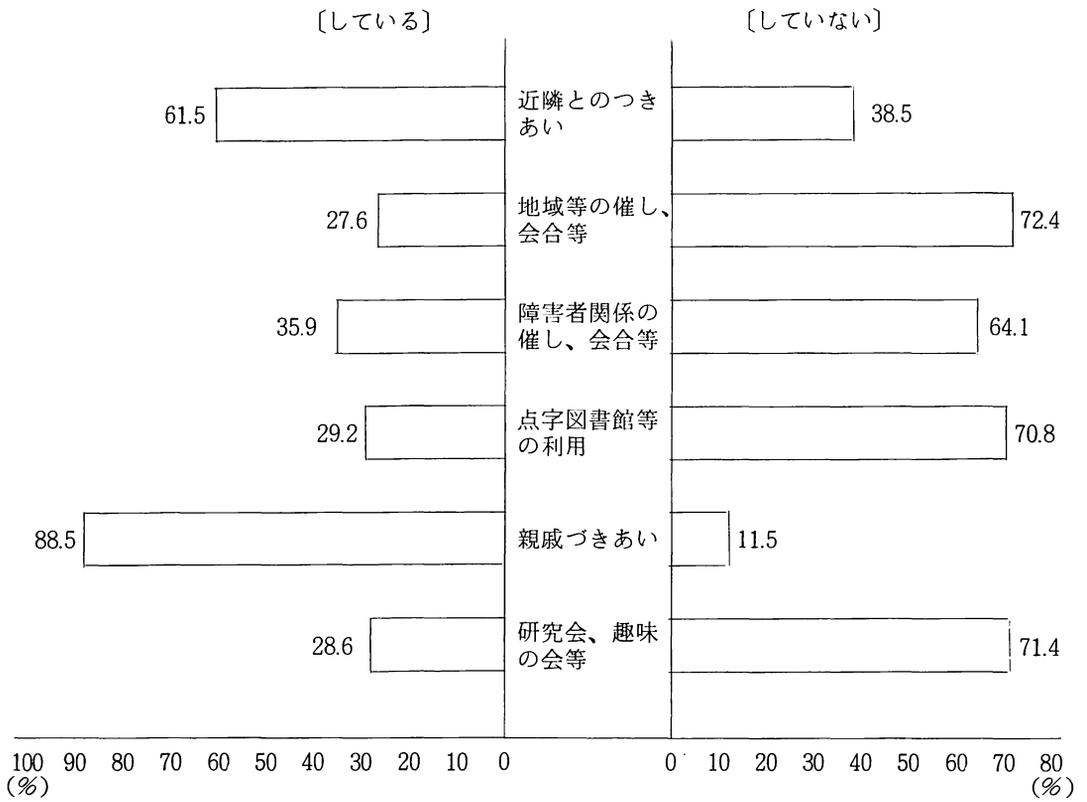


図28 市別の社会参加状況

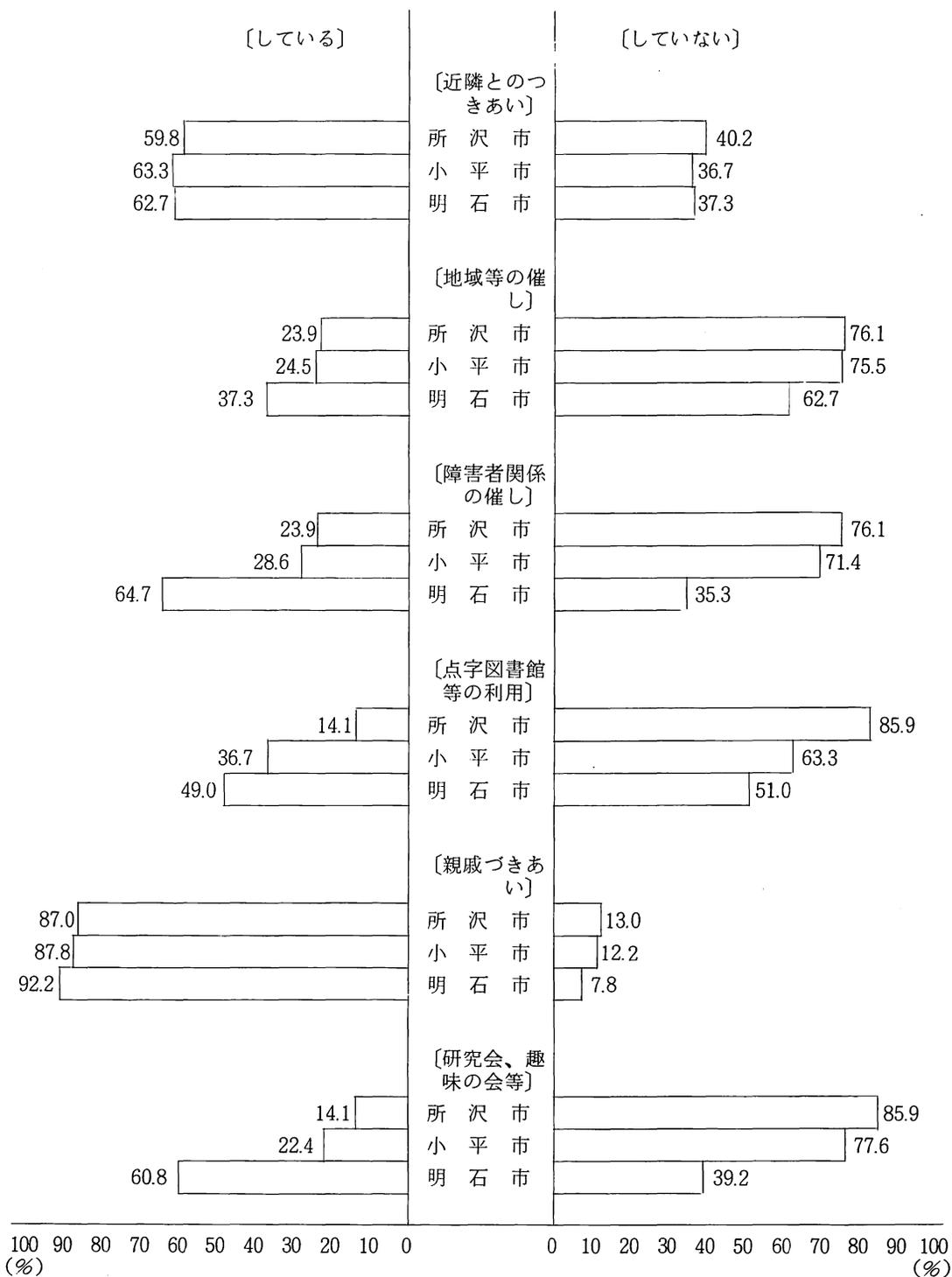
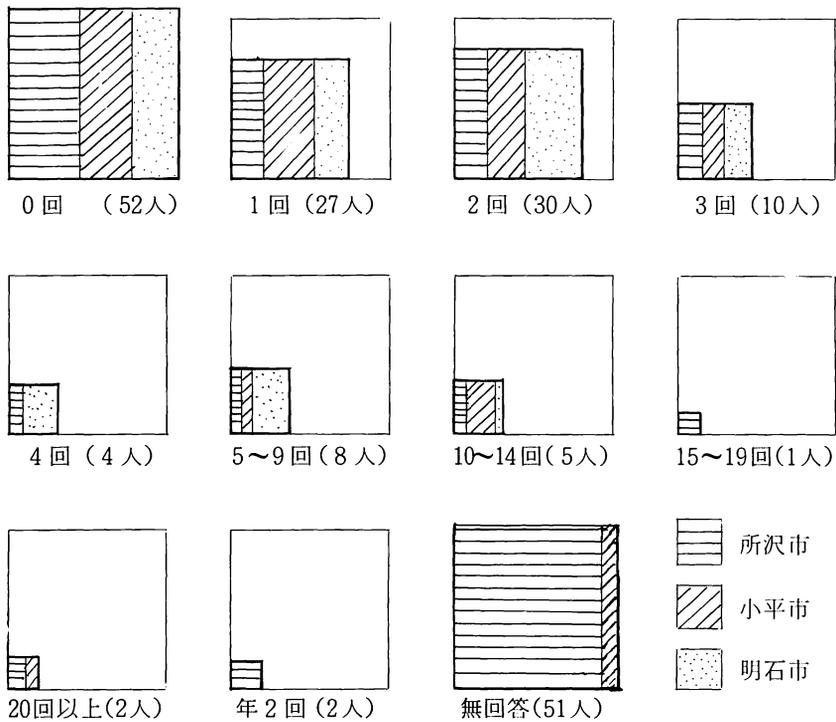


図29 社会参加回数状況(月)



各回の背後の正方形は比較標準50人を示す。

#### 4 生活訓練

##### (1) リハビリテーションセンターの存在

生活訓練を実施しているリハビリテーションセンターについて、知っているか、いないか、を質問したところ、図30・31に示すように、74.0%の者がリハビリテーションセンターの存在を知っている。

図30 リハビリテーションセンターの存在

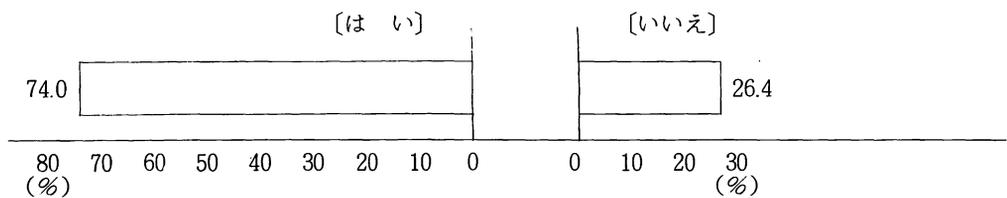
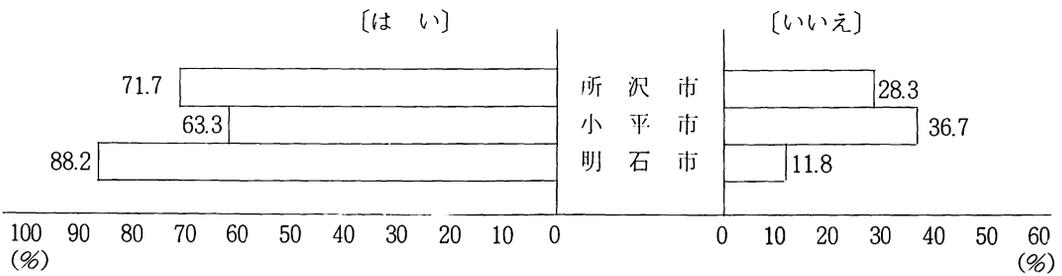


図31 市別のリハビリテーションの存在の知識



(2) 生活訓練の希望状況

生活訓練を受けたいと思っている者は71.4%とニーズが高くなっている。「いいえ」と回答した者でも、「自宅の近くにあるならば」、「通って行ければ」、「午後だけであれば」といった条件があり、女性視覚障害者の生活基盤に相応したリハビリテーション・サービスが提供できれば、かなりのニーズがある。このようなニーズに応じることはリハビリテーションにとって重要な課題であると言える。

図32 生活訓練希望の状況

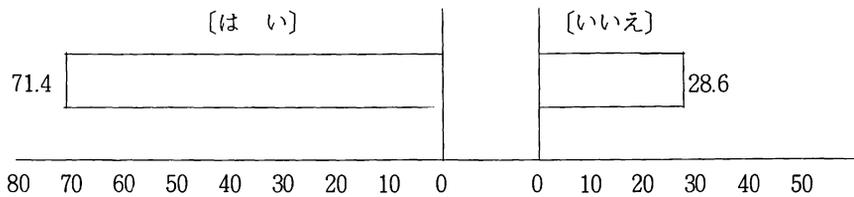
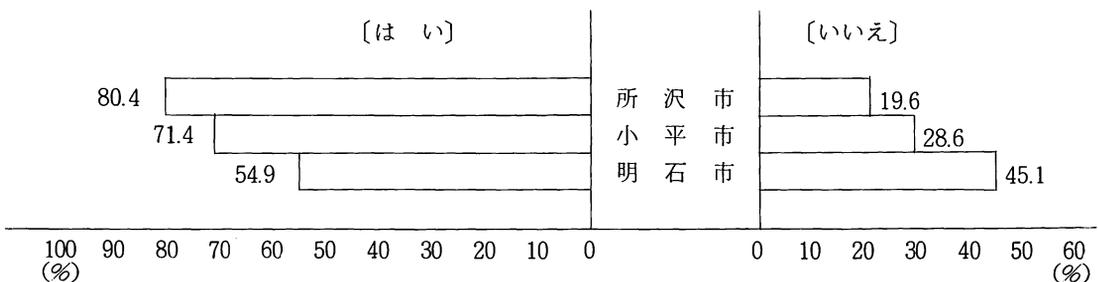


図33 市別の生活訓練希望状況



(3) 生活訓練の希望科目

生活訓練を希望している者は137人いたが、希望科目では、137人中87人（63.5%）が歩行訓練を希望している。以下、調理訓練（27.0%）、点字訓練（18.2%）、カナタイプ訓練（16.8%）、手書き文字訓練（10.2%）、身辺処理訓練（8.6%）の順になっている。この結果から、女性視覚障害者が生活上最も困っているのが歩行であることがわかる。調理訓練のニーズも歩行訓練のつぎに上げられており、広範な生活訓練プログラムを用意する必要がある。また、生活訓練の希望者が調査対象者の71.4%もおり、決して全盲者だけでなく、眼前手動弁以上の視力保有者も生活訓練を希望していることも忘れてはならない。明石市においては、生活訓練希望者が54.9%と他市と比較して低い数字を示しているけれども、これは明石市盲人協会主催の生活訓練講習会に参加している者も含まれており、ある程度の日常生活技術を習得していると思われる。逆に、講習会に参加していてもなお、54.9%も生活訓練を希望している者がいることは、講習会という短期間の間では十分な習得は望めず、ある程度の時間をかけて訓練することが必要であると言える。

表 6 生活訓練希望者の希望科目別人員

	希望 実人員	総 数	歩 行	身 辺 処 理	調 理	点 字	カ ナ タ イ プ	手 書 き 文 字	そ の 他
総 数	137 <sup>(人)</sup>	212	87	12	37	32	16	14	14
所 沢 市	74	96	41	4	16	16	8	4	7
小 平 市	35	84	25	7	17	16	6	8	5
明 石 市	28	32	21	1	4	—	2	2	2

### 第3章 ま と め

女性視覚障害者の生活実態調査を192人に対して行ったのであるが、家の中での日常生活動作（身辺処理、家事、調理等）は自分なりに慣れでできるということもあって70%以上の自立度があり、介助のニーズもそれほど高くなっていないが、コミュニケーション手段の獲得では自立度が低く、手紙においては約半数の者が何んらかの介助を要求している。また歩行、買物、外出等の移動をとまなう行動については自立度が低く、介助のニーズが高くなっている。これらの日常生活動作を視力との相関で見ると、視力障害の程度に対して介助のニーズが高くなるが、弱視者も全盲と同様にリハビリテーション・サービスを受ける必要があるといえる。

社会参加状況では、親戚づきあい、近隣とのつきあいは比較的多いけれども、地域の催し・会合、障害者関係の催し・会合、点字図書館等の公共施設の利用、研究会等には積極的な参加はすくなかった。従って女性視覚障害者が積極的に地域の社会資源を活用できるように、情報を受け入れたり、参加意欲を高める等、生活の基盤を作ることが必要であろう。そのためにも、生活訓練を受けて日常生活技術を習得する機会が与えられるべきである。催し物の情報を提供されてもその場所まで移動できなければ社会参加は望めない。

生活訓練については、調査対象となった3市ともリハビリテーション施設の地元でもあるためそうしたリハビリテーションの存在を知っている者が多かったし、訓練を希望する者の割合も多く、生活訓練へのニーズが高くなっているが、住んでいる地域にリハビリテーション施設がないところで調査した場合は生活訓練のことについて知る方法もなく訓練ニーズはこのようには表われないかもしれない。今回の調査は、それが限られた地域を対象としたという制約はあるにしても女性視覚障害者のリハビリテーション・ニーズをある程度客観的にとらえることができたものと考えられる。

そして、いままで婦人が盲となった場合は、家にとじこもったままで最小限の家事をさせておくしか仕方ないといった考えが肉親の中にもあって盲婦人のニーズが顕在化することなしにきていたと見られるが、このことが盲婦人に対する世間一般の認識を遅らせていた原因のように思える。光を失った盲婦人は家の中でひっそりした暮らしに慣らされ、社会参加の機会を奪われてきた。それは世間から無視されていることであり、差別であるといえる。彼女達がリハビリテーションの機会を得て日常生活はもとより移動、コミュニケーション等について自立することは人格の独立を獲得することであり社会生活を営むうえでの基本でもある。

こうしたリハビリテーションの機会を得るにつけ特に女性の場合は遠くにある施設を利用することについて種々制約がある。このことを考えると、彼女達の住む地域において、こうした訓練サービスを提供する施策が進められることが是非とも必要であると考えられる。

## 資料・――

第1表	年令階級別人員	41
第2表	視力別人員	41
第3表	視野別人員	41
第4表	障害等級別人員	42
第5表	身障手帳交付時期別人員	42
第6表	日常生活動作の状況一身のまわりの処理、自立度別人員	42
第7表	日常生活動作の状況一家事・調理、自立度別人員	43
第8表	日常生活動作の状況一通信・歩行、自立度別人員	44
第9表	日常生活動作の状況一買物・外出・育児、自立度別人員	44
第10表	外出回数別人員	45
第11表	一日の過ごし方別人員	45
第12表	現在の暮らしの満足度別人員	45
第13表	リハビリテーションセンターの存在の知識別人員	45
第14表	生活訓練の希望別人員	45
第15表	生活訓練希望者の希望科目別人員	46
第16表	社会参加別人員	46
第17表	社会参加回数別人員	46
第18表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔整理整頓〕	47
第19表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔身だしなみ〕	48
第20表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔お金の見分け方〕	49
第21表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔食事動作〕	50
第22表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔洗濯〕	51
第23表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔掃除〕	52
第24表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔包丁が使える〕	53
第25表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔ご飯を炊く〕	54
第26表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔みそ汁、スープなど〕	55
第27表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔おかず〕	56
第28表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔盛りつけ・配膳〕	57
第29表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔後片づけ〕	58
第30表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔電話〕	59
第31表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔手紙〕	60
第32表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔テープレコーダの操作等〕	61
第33表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔街の中、道路等の歩行〕	62
第34表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔近くの小売店での買物〕	63
第35表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔スーパー、デパートでの買物〕	64
第36表	人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔外出〕	65

第1表 年令階級別人員

	総 数	所 沢 市	小 平 市	明 石 市
総 数	192 人	92 人	49 人	51 人
18～19 人	2	1	1	
20～29	16	6	6	4
30～39	26	11	3	12
40～49	32	11	10	11
50～59	48	21	10	17
60～69	32	12	14	6
70～79	26	21	4	1
80～89	9	8	1	
90～	1	1		

第2表 視力別人員

	総 数	所 沢 市	小 平 市	明 石 市
総 数	192 人	92 人	49 人	51 人
全くみえない	62	24	12	26
明暗がわかる	30	18	6	6
目の前で手の動きがわかる	44	22	15	7
それ以上	56	28	16	2

第3表 視野別人員

	総 数	所 沢 市	小 平 市	明 石 市
総 数	192 人	92 人	49 人	51 人
異常がある	106	52	35	19
異常がない	80	34	14	32
無 回 答	6	6		

第4表 障害等級別人員

	総数	所沢市	小平市	明石市
総数	192 <sup>人</sup>	92 <sup>人</sup>	49 <sup>人</sup>	51 <sup>人</sup>
1級	111	47	19	45
2級	43	19	19	5
3級	12	5	7	
4級	6	4	2	
5級	6	4	1	1
6級	14	13	1	

第5表 身障手帳交付時期別人員

	総数	所沢市	小平市	明石市
総数	192 <sup>人</sup>	92 <sup>人</sup>	49 <sup>人</sup>	51 <sup>人</sup>
25～29	16	4	2	10
30～34	20	7	1	12
35～39	25	9	6	10
40～44	21	6	7	8
45～49	29	19	6	4
50～54	38	23	9	6
55～58	39	22	16	1
不明	4	2	2	

第6表 日常生活動作の状況一身のまわりの処理、自立度別人員

	市	総数	一人でできる	一人ではできない			無回答
				一部介助が必要	全部介助が必要	介助者がいない	
整理整頓	総数	192 <sup>人</sup>	155 <sup>人</sup>	26 <sup>人</sup>	11 <sup>人</sup>		
	所沢市	92	66	18	8		
	小平市	49	39	8	2		
	明石市	51	50		1		
身だしなみ (化粧、服装、 整髪など)	総数	192	163	21	8		
	所沢市	92	73	13	6		
	小平市	49	42	6	1		
	明石市	51	48	2	1		
お金の見分け方	総数	192	154	21	16	1	
	所沢市	92	67	14	11		
	小平市	49	39	5	4	1	
	明石市	51	48	2	1		
食事動作 (しょうゆなど適当 にかけられる等)	総数	192	149	27	14	2	
	所沢市	92	66	15	10	1	
	小平市	49	35	10	3	1	
	明石市	51	48	2	1		

第7表 日常生活動作の状況一家事・調理、自立度別人員

	市	総数	一人でできる	一人ではできない			無回答
				一部介助が必要	全部介助が必要	介助者がいない	
洗 濯	総数	192人	146人	22人	19人		
	所沢市	92	69	8	15		
	小平市	49	41	5	3		
	明石市	51	50		1		
掃 除	総数	192	146	22	19		5
	所沢市	92	59	14	14		5
	小平市	49	37	8	4		
	明石市	51	50		1		
包丁が使える	総数	192	155	12	21		4
	所沢市	92	63	10	15		4
	小平市	49	42	2	5		
	明石市	51	50		1		
ご飯を炊く	総数	192	155	10	21		6
	所沢市	92	64	7	15		6
	小平市	49	41	3	5		
	明石市	51	50		1		
みそ汁、スープなど	総数	192	153	9	24		6
	所沢市	92	61	7	18		6
	小平市	49	42	2	5		
	明石市	51	50		1		
お か ず (煮物、やき物など)	総数	192	139	21	25		7
	所沢市	92	55	13	18		6
	小平市	49	34	8	6		1
	明石市	51	50		1		
盛りつけ 配 膳	総数	192	139	22	24	1	6
	所沢市	92	56	12	18		6
	小平市	49	33	10	5	1	
	明石市	51	50		1		
後片づけ 収 納	総数	192	148	19	19		6
	所沢市	92	57	14	15		6
	小平市	49	41	5	3		
	明石市	51	50		1		

第8表 日常生活動作の状況—通信・歩行、自立度別人員

	市	総数	一人でできる	一人ではできない			無回答
				一部介助が必要	全部介助が必要	介助者がいない	
電 話	総数	192人	152人	20人	18人	1人	人
	所沢市	92	64	15	12		1
	小平市	49	40	3	5	1	
	明石市	51	48	2	1		
手 紙 (点字・カナタイプなど)	総数	192	92	23	61	1	15
	所沢市	92	27	16	34		15
	小平市	49	16	6	26	1	
	明石市	51	49	1	1		
テープレコーダ の 操 作	総数	192	117	13	40	3	19
	所沢市	92	35	8	30	1	18
	小平市	49	34	3	9	2	1
	明石市	51	48	2	1		
街の中、道路等	総数	192	94	36	56	2	4
	所沢市	92	46	17	24	1	4
	小平市	49	28	7	13	1	
	明石市	51	20	12	19		

第9表 日常生活動作の状況—買物・外出・育児、自立度別人員

	市	総数	一人でできる	一人ではできない			無回答
				一部介助が必要	全部介助が必要	介助者がいない	
近くの小売店 での買物	総数	192人	99人	27人	59人	1人	6人
	所沢市	92	45	14	27		6
	小平市	49	26	7	15		1
	明石市	51	28	6	17		
スーパー、デパートでの買物	総数	192	69	44	71	2	6
	所沢市	92	39	18	29		6
	小平市	49	14	13	20	2	
	明石市	51	16	13	22		
外 出	総数	192	92	27	61	1	11
	所沢市	92	42	12	27		11
	小平市	49	27	6	15	1	
	明石市	51	23	9	19		
乳幼児の育児	総数	192	12		1		179
	所沢市	92	9				83
	小平市	49			1		48
	明石市	51	3				48

第10表 外出回数別人員

	総 数	ほゞ毎日	週2～3日	月2～3回	年に数回	全くなかった	無 回 答
総 数	192人	50人	57人	53人	19人	11人	2人
所 沢 市	92	22	25	19	15	9	2
小 平 市	49	15	17	13	2	2	
明 石 市	51	13	15	21	2		

第11表 一日の過ごし方別人員

	総 数	仕 事	家 事	読書、テレビ、ラ ジオ、おしゃべり等	そ の 他
総 数	192人	35人	83人	54人	20人
所 沢 市	92	6	39	35	12
小 平 市	49	9	18	17	5
明 石 市	51	20	26	2	3

第12表 現在の暮らしの満足度別人員

	総 数	満足している	まあまあ満足している	不満があるが仕方がない	不 満	無 回 答
総 数	192人	6人	22人	119人	44人	1人
所 沢 市	92	4	10	50	28	
小 平 市	49	2	5	35	6	1
明 石 市	51		7	34	10	

第13表 リハビリテーションセンターの存在の知識別人員

	総 数	は い			い い え				
		総 数	所沢市	小平市	明石市	総 数	所沢市	小平市	明石市
リハセンターの存在	192人	142人	66人	31人	45人	50人	26人	18人	6人

第14 生活訓練の希望別人員

	総 数	は い			い い え				
		総 数	所沢市	小平市	明石市	総 数	所沢市	小平市	明石市
訓練希望の有無	192人	137人	74人	35人	28人	55人	18人	14人	23人

第15表 生活訓練希望者の希望科目別人員

	希望 実人員	総数	歩行	身辺処理	調理	点字	カナタイプ	手書き文字	その他
総数	137人	212人	87人	12人	37人	32人	16人	14人	14人
所沢市	74	96	41	4	16	16	8	4	7
小平市	35	84	25	7	17	16	6	8	5
明石市	28	32	21	1	4		2	2	2

第16表 社会参加別人員

	総数	している				していない			
		総数	所沢市	小平市	明石市	総数	所沢市	小平市	明石市
近隣とのつきあい	192人	118人	55人	31人	32人	74人	37人	18人	19人
地域等の催し、会合等	192	53	22	12	19	139	70	37	32
障害者関係の催し、会合	192	69	22	14	33	123	70	35	18
点字図書館等の利用	192	56	13	18	25	136	79	31	26
親戚づきあい	192	170	80	43	47	22	12	6	4
研究会、趣味の会等	192	55	13	11	31	137	79	38	20

第17表 社会参加回数別人員

	総数	所沢市	小平市	明石市
総数	192人	92人	49人	51人
0	52	22	17	13
1	27	4	12	11
2	30	7	9	14
3	10	3	3	4
4	4	1		3
5 ~ 9	8	1	2	5
10 ~ 14	5	1	3	1
15 ~ 19	1	1		
20 ~	2	1	1	
年2回	2	2		
無回答	51	49	2	

第18表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔整理整頓〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総 数		192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる	総 数	155	47	23	34	51	
	所 沢 市	66	13	12	15	26	
	小 平 市	39	9	5	12	13	
	明 石 市	50	25	6	7	12	
自分ではできない	一部介助	総 数	26	6	6	9	5
		所 沢 市	18	4	5	7	2
		小 平 市	8	2	1	2	3
		明 石 市					
	全部介助	総 数	11	9	1	1	
		所 沢 市	8	7	1		
		小 平 市	2	1		1	
		明 石 市	1	1			
介助者がいない	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						
無 回 答	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						

第19表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔身だしなみ〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総 数		192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる		総 数	163	47	25	37	54
		所 沢 市	73	14	14	19	26
		小 平 市	42	9	5	12	16
		明 石 市	48	24	6	6	12
自分で は で き な い	一部介助	総 数	21	7	5	7	2
		所 沢 市	13	4	4	3	2
		小 平 市	6	2	1	3	
		明 石 市	2	1		1	
	全部介助	総 数	8	8			
		所 沢 市	6	6			
		小 平 市	1	1			
		明 石 市	1	1			
	介助者が いない	総 数					
		所 沢 市					
		小 平 市					
		明 石 市					
無 回 答	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						

第20表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔お金の見分け方〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総 数		192 人	62 人	30 人	44 人	56 人	
自分でできる	総 数	154	44	20	37	53	
	所 沢 市	67	11	11	19	26	
	小 平 市	39	8	4	12	15	
	明 石 市	48	25	5	6	12	
自分でできない	一部介助	総 数	21	6	7	5	3
		所 沢 市	14	5	5	2	2
		小 平 市	5	1	1	2	1
		明 石 市	2		1	1	
	全部介助	総 数	16	12	2	2	
		所 沢 市	11	8	2	1	
		小 平 市	4	3		1	
		明 石 市	1	1			
	介助者がいない	総 数	1		1		
		所 沢 市					
小 平 市		1		1			
明 石 市							
無 回 答	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						

第21表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔食事動作〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総	数	192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる	総 数	149	44	18	36	51	
	所 沢 市	66	13	9	18	26	
	小 平 市	35	8	3	11	13	
	明 石 市	48	23	6	7	12	
自分でできない	一部介助	総 数	27	7	8	7	5
		所 沢 市	15	3	6	4	2
		小 平 市	10	2	2	3	3
		明 石 市	2	2			
	全部介助	総 数	14	11	2	1	
		所 沢 市	10	8	2		
		小 平 市	3	2		1	
		明 石 市	1	1			
	介助者がいない	総 数	2		2		
		所 沢 市	1		1		
		小 平 市	1		1		
		明 石 市					
無 回 答	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						

第22表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔洗濯〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総	数	192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる	総 数	160	46	25	36	53	
	所 沢 市	69	12	14	16	27	
	小 平 市	41	9	5	13	14	
	明 石 市	50	25	6	7	12	
自分ではできない	一部介助	総 数	13	3	3	4	3
		所 沢 市	8	2	3	2	1
		小 平 市	5	1		2	2
		明 石 市					
	全部介助	総 数	19	13	2	4	
		所 沢 市	15	10	1	4	
		小 平 市	3	2	1		
		明 石 市	1	1			
介助者がいない	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						
無 回 答	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						

第23表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔掃 除〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総 数		192人	62人	30人	44人	56人	
自分でできる	総 数	146	44	21	33	48	
	所 沢 市	59	11	11	14	23	
	小 平 市	37	8	4	12	13	
	明 石 市	50	25	6	7	12	
自分ではできない	一部介助	総 数	22	3	7	6	6
		所 沢 市	14	2	5	4	3
		小 平 市	8	1	2	2	3
		明 石 市					
	全部介助	総 数	19	13	2	4	
		所 沢 市	14	9	2	3	
		小 平 市	4	3		1	
		明 石 市	1	1			
	介助者がいない	総 数					
		所 沢 市					
		小 平 市					
		明 石 市					
無 回 答	総 数	5	2		1	2	
	所 沢 市	5	2		1	2	
	小 平 市						
	明 石 市						

第24表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔包丁が使える〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総 数		192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる		総 数	155	47	22	33	53
		所 沢 市	63	13	11	13	26
		小 平 市	42	9	5	13	15
		明 石 市	50	25	6	7	12
自分ではできない ない	一部介助	総 数	12	2	4	6	
		所 沢 市	10	2	4	4	
		小 平 市	2			2	
		明 石 市					
	全部介助	総 数	21	12	4	3	2
		所 沢 市	15	8	3	3	1
		小 平 市	5	3	1		1
		明 石 市	1	1			
	介助者がいない	総 数					
		所 沢 市					
		小 平 市					
		明 石 市					
無 回 答		総 数	4	1		2	1
		所 沢 市	4	1		2	1
		小 平 市					
		明 石 市					

第25表 人員・視力障害の程度・日常生活介助の状況別〔ご飯を炊く〕

		総 数	全くみえない	明暗がわかる	目の前の手の動きがわかる	それ以上	
総	数	192 <sup>人</sup>	62 <sup>人</sup>	30 <sup>人</sup>	44 <sup>人</sup>	56 <sup>人</sup>	
自分でできる	総 数	155	46	21	36	52	
	所 沢 市	64	12	11	16	25	
	小 平 市	41	9	4	13	15	
	明 石 市	50	25	6	7	12	
自分で は でき ない	一部介助	総 数	10	1	5	3	1
		所 沢 市	7	1	4	1	1
		小 平 市	3		1	2	
		明 石 市					
	全部介助	総 数	21	13	4	3	1
		所 沢 市	15	9	3	3	
		小 平 市	5	3	1		1
		明 石 市	1	1			
介助者が いない	総 数						
	所 沢 市						
	小 平 市						
	明 石 市						
無 回 答	総 数	6	2		2	2	
	所 沢 市	6	2		2	2	
	小 平 市						
	明 石 市						